

健康医療学部

Faculty of Health and
Medical Sciences

履修要項

2025

2025年度 学 年 暦

春学期

| | | 90分×15回 | | | | | | | |
|----|----|---------|----|----|----|----|----|----------------------------------|-------|
| | | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 年間行事等 |
| 3月 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 3/7 進級判定 | |
| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 進級判定 | |
| | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 3/20 (春分の日) | |
| | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 3/21 卒業式(秋学期) | |
| 4月 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 3/25-4/2, 4/4 2025年度春学期オリエンテーション | |
| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 4/3 入学式(春学期) | |
| | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 4/7 春学期授業開始 | |
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 4/29 (昭和の日) 授業日 | |
| 5月 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 | 3 | 4/30、5/1、2 休講 | |
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 5/3 (憲法記念日) | |
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 5/4 (みどりの日) | |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 5/5 (こどもの日) | |
| 6月 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 5/6 (こどもの日) 振替休日 | |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | | |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | | |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | | |
| 7月 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | | |
| | 29 | 30 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | |
| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | |
| | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | | |
| 8月 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 7/21 (海の日) 授業日 | |
| | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 7/25 春学期授業終了 | |
| | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 7/26、28 補講 | |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 7/29-8/4 春学期定期試験 | |
| 9月 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 8/5-8/7 追試験 | |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | (8/8 追試験予備日) | |
| | 31 | | | | | | | 8/11(山の日) | |
| | | | | | | | | 8/19-8/21 再試験 | |
| | | | | | | | | (8/22 再試験予備日) | |

秋学期

| | | 90分×15回 | | | | | | | |
|-----|----|---------|----|----|----|----|----|----------------------------|-------|
| | | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 年間行事等 |
| 9月 | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 9/3 卒業/進級判定 | |
| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 9/10 午前卒業式(春学期)/午後入学式(秋学期) | |
| | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 9/8-18 秋学期オリエンテーション | |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 9/15 敬老の日 | |
| 10月 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 | 3 | 4 | 9/19 秋学期授業開始 | |
| | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 9/23 秋分の日 授業日 | |
| | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 10/13 (スポーツの日) 授業日 | |
| | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 10/24 学園祭準備のため休講 | |
| 11月 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 学園祭 | |
| | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 10/25、10/26 学園祭(予定) | |
| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 11/3 (文化の日) 授業日 | |
| | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | | |
| 12月 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 11/23 (勤労感謝の日) | |
| | 30 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 11/24 (勤労感謝の日) 振替休日 授業日 | |
| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | | |
| | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | | |
| 1月 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | | |
| | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 | 1/1 (元日) | |
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 1/9 秋学期授業終了 | |
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 1/12 (成人の日) | |
| 2月 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 1/13、14 補講日 | |
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1/15-1/21 秋学期定期試験 | |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 1/23-1/27 追試験 | |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | (1/28 追試験予備日) | |
| 3月 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 2/5-9 再試験 | |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | (2/10 再試験予備日) | |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 2/11 (建国記念の日) | |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 2/23 (天皇誕生日) | |
| 3月 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 2/27 卒業判定 | |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 3/6 進級判定 | |
| | 29 | 30 | 31 | | | | | 3/20 (春分の日) | |
| | | | | | | | | 3/22 卒業式(秋学期) | |
| | | | | | | | | 3/25-31 2026年度春学期オリエンテーション | |

- (1)~(15) 授業日
- オリエンテーション
- 定期試験
- 再試験・追試験
- 休講

※休講期間に集中講義を行う場合があります。

- 式典
- 学園祭
- 卒業判定・進級判定
- 土・日・祝日
- 夏休み・冬休み・春休み期間

履修要項

2025

京都先端科学大学
健康医療学部

看護学科

Nursing

言語聴覚学科

Speech and Hearing Sciences and Disorders

健康スポーツ学科

Health and Sports Sciences

京都先端科学大学 建学の精神と3つのポリシー

<建学の精神>

本学では、未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材を輩出します。

本学では、これからの社会が目指すべき姿を構想し、その実現に向けた諸課題の解決に繋がる先端学術研究を実践します。

本学は、人材輩出・研究の実践を通じ、現在と未来の世界に先頭を切って貢献していきます。

<建学の精神の実践>

未来社会を支える人材は、多様な価値観の存在する世界で活躍します。

本学は、未来社会の姿を見通し、起こり得る新たな課題を洞観し、現在の諸課題と併せて世界に率先して解決する教育・研究活動を実践します。

世界で通用する先進性・多様性・倫理観と、専門的知識・創造的思考力・洞察力・俯瞰力・幅広い教養を兼ね備えて、複雑で複合的な問題に挑戦できる人材を育てます。

<卒業認定・学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

1. 知識・理解

1.1 核となる特定の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

2.1 適切な方法で収集した情報およびデータを活用できる。

2.2 多様な言語を用いて、他者と意思疎通を行うことができる。

3. 思考・判断・表現

3.1 修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。

3.2 自ら設定した主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

4.1 変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

4.2 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

<教育課程編成・実施の方針> (カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程編成

1.1 教育課程として、現代リベラルアーツ科目および各学部学科専門科目を配置します。

1.2 現代リベラルアーツ科目では、汎用的能力の中核的な力として、未来展望力・教養、学術的な基礎力・技能、語学力・異文化理解、およびコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を修得することを目的とし、修得に必要なリベラルアーツ科目を配置します。

1.3 専門科目は、各々の学部学科の学修を活かした進路に則して配置され、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成します。

2. 学修方法・学修過程

(学修方法)

2.1 4年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

(学修過程)

- 2.2.1 現代リベラルアーツ科目では、汎用的能力の修得に必要なリベラルアーツ科目を段階的に学修します。
- 2.2.2 初年次科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行います。
- 2.2.3 学術的な日本語能力・数的処理能力・IT 技能の修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を育む学修を行います。
- 2.2.4 社会人として有用な英語力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで英語科目を学修します。また、英語で学ぶ留学生は、日本社会で必要な日本語力の修得を目的として、日本語科目を段階的に学修します。
- 2.2.5 キャリア科目では、働くことの意義を理解し、キャリア形成に関する実践的手法を学修します。
- 2.2.6 4年間を通じて、教養および課題発見力・解決力を育む未来展望科目ならびに学際コア科目でグローバル社会の諸問題を学際的に学修します。

(学修過程)

- 2.3 専門科目では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、各学部学科で設置されるコース・プログラムの下で段階的に学修しながら卒業研究を行います。
- ### 3. 学修成果の評価
- 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。
 - 3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

<入学者受け入れの方針> (アドミッション・ポリシー)

本学は、建学の精神において、「未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材」の育成を教育の目的にしています。そのために、志望学部・学科の教育内容を理解した上で、学問の探究と実践、並びに技能の向上を目指し、グローバル社会に必要な市民教養を身につける意欲を持つ人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校等において履修する科目についての基礎的な知識や技能を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・科学、文化、社会、自然、健康などの事象に関わる学問領域について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・学問や技能に対する強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・知識や技能の修得のために、多様な人々と協働して取り組める。
- ・国際人としての教養を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

<学修成果評価の方針> (アセスメント・プラン)

1. 目的

本学のディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、及びアドミッション・ポリシー (AP) の達成状況を検証する方法を定めることにより、学生の学修成果を評価し、教育の改善を持続的に行う。

2. 機関レベル (大学全体)

学生の志望進路に対する就職率、資格・免許取得率、学生調査などから、学修成果の達成状況を検証する。

3. 教育課程レベル (学部・学科)

学部・学科の教育課程における単位修得状況、GPA、卒業論文、資格・免許取得率などから、教育課程レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

4. 科目レベル (授業科目)

ディプロマ・ポリシー (DP) とシラバスで明示した到達目標が適合しているかを検証する。また、成績評価基準に基づく成績評価、授業評価アンケートの結果などから、科目レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

■主なアセスメント (評価) 指標

| | 入学前・入学時 | 在学中 | 卒業時・卒業後 |
|--------------------|---|---|---|
| 機関レベル (大学) | <ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 新入生調査 外部アセスメントテスト | <ul style="list-style-type: none"> 留年率 休学率 退学率 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業率、学位授与数 就職率、進学率 資格・免許取得率 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 単位修得状況 GPA 成績分布 課外活動参加率 学外活動参加率 在学生調査 学修ポートフォリオ 外部アセスメントテスト | <ul style="list-style-type: none"> 卒業時学生調査 卒業後学生調査 学修ポートフォリオ 外部アセスメントテスト |
| 教育課程レベル (学部・学科) | <ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 新入生調査 外部アセスメントテスト | <ul style="list-style-type: none"> 留年率 休学率 退学率 | <ul style="list-style-type: none"> 就職率、進学率 資格・免許取得率 教員採用試験合格率 国家試験合格率 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 単位修得状況 GPA 成績分布 各種 成果報告会 各種 コンテスト 海外留学・研修評価 インターンシップ評価 在学生調査 学修ポートフォリオ 外部アセスメントテスト | <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究、卒業論文 卒業時学生調査 卒業後学生調査 学修ポートフォリオ 外部アセスメントテスト |
| 科目レベル (授業科目) | <ul style="list-style-type: none"> 入学前教育 プレイスメントテスト | <ul style="list-style-type: none"> 成績評価 成績分布 科目合格率 出席状況 授業評価アンケート 卒業研究 | — |

※アセスメント (評価) の実施時期、対象、評価者、実施責任者、結果の活用方法等については別に定める。
また、上の指標は改定する場合がある。

履修要項とは

入学から卒業までの間に、学則および履修要項に定められた科目を学修し、所定の単位を修得しなければなりません。この『履修要項』には、学修の計画をたてるために必要な情報をすべて掲載しています。熟読して、卒業までの学修計画をしっかりとたてましょう。この冊子は、入学時のみ配布しますので、紛失等のないよう留意してください。

京都先端科学大学 健康医療学部 履修要項目次

| | | | |
|------------------------|----|---------------------|----|
| 京都先端科学大学 建学の精神と3つのポリシー | 2 | 第3章 健康スポーツ学科 | |
| | | 教育目的と3つのポリシー | 52 |
| 覚えてほしい大切なこと | | カリキュラム | 54 |
| アドバイザー制度 | 6 | 授業科目一覧 | 59 |
| 教員との連絡 | 6 | | |
| 「先端なび」～学修支援ポータルサイト～ | 6 | 第4章 大学共通 | |
| 大学からの連絡 | 6 | インターンシップ(企業実習)プログラム | 63 |
| 授業の出席要件について | 6 | 大学コンソーシアム京都 単位互換制度 | 64 |
| スポーツ・ライフスキル科目 | 7 | 放送大学 単位互換制度 | 65 |
| (SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の受講について | | 国内留学(札幌学院大学・沖縄国際大学) | 66 |
| 教務センター窓口 | 7 | 海外留学・海外研修 | 67 |
| | | キャリア・就職支援体制 | 69 |
| 第1部 履修の心得 | | カリキュラムツリー | 71 |
| Ⅰ. 履修をはじめるとあたって | 8 | | |
| Ⅱ. 授業科目の開設について | 9 | | |
| Ⅲ. 履修登録 | 11 | | |
| Ⅳ. 出席管理システムについて | 14 | | |
| Ⅴ. 試験 | 15 | | |
| Ⅵ. 成績・GPA | 19 | | |
| Ⅶ. 単位授与及び認定 | 20 | | |
| Ⅷ. 進級要件 | 21 | | |
| Ⅸ. 学修者本位の学び | 23 | | |
| Ⅹ. 卒業と学位 | 24 | | |
| Ⅺ. 学籍 | 26 | | |
| | | | |
| 第2部 教育課程 | | | |
| 健康医療学部 教育目的と3つのポリシー | 31 | | |
| | | | |
| 第1章 看護学科 | | | |
| 教育目的と3つのポリシー | 33 | | |
| カリキュラム | 35 | | |
| 授業科目一覧 | 39 | | |
| | | | |
| 第2章 言語聴覚学科 | | | |
| 教育目的と3つのポリシー | 43 | | |
| カリキュラム | 45 | | |
| 授業科目一覧 | 48 | | |

学則、学費規程、学位規程、学生の懲戒に関する規程は、「先端なび」共通>ドキュメント>諸規則情報」で確認してください。

覚えてほしい大切なこと

アドバイザー制度

学生のみなさん一人ひとりに対して、専任の担任・副担任がアドバイザーとして指導を行います。担任・副担任は、みなさんの様々な相談に応じ、学修・生活上の問題解決のための助言を行います。

教員との連絡

本学では、学生が教員に相談できる時間としてオフィス・アワーを設けています。教員との連絡・相談は、授業前後やオフィス・アワーの時間を利用して行ってください。オフィス・アワーは、「先端なび」で確認できます。この他にも、教員が研究室に在室している時間は相談を受け付けます。

「先端なび」～学修支援ポータルサイト～

「先端なび」は、パソコンを使用して、以下に記載されているような様々な学生生活に関わる情報を提供します。



スマートフォンで確認する場合は、右のQRコードからご利用ください。

- ◇諸連絡 ◇各種案内 ◇休講・補講情報 ◇呼び出し情報 ◇学修ポータルフォリオ
 - ◇履修登録・シラバスの参照 ◇各人の授業時間割の参照 ◇出欠状況
 - ◇課題（レポート等）の確認・提出 ◇住所等届出事項の変更 ◇面談予約 ◇就職関係 など
- ※「先端なび」の「メール設定」画面で自分のメールアドレスを登録しておくこと、掲示された情報がメールに配信（転送）されます。

大学からの連絡

大学から学生のみなさんへの連絡は、原則として「先端なび」を通じて行います。毎日必ず「先端なび」を確認してください。「先端なび」に掲載したものは、学生に周知されたものとして取り扱います。

授業の出席要件について

1. 授業出席要件（一部科目除く）

履修科目の単位を修得するには、授業に出席し学修を行うことが大前提となります。本学で開講されるすべての科目について、単位を授与されるには、授業回数の3分の2以上の出席が必要です（15回ある授業の場合、10回以上の出席が必要）。なお、1回の遅刻（授業開始後5分から20分の間）は、それ自体では欠席とはなりません。遅刻をどのように扱うかについては、科目担当教員が判断します。

2. 厳しい出席要件を課す科目

一部の科目については、厳しい出席条件を課しています。

現代リベラルアーツ科目の下記の必修科目では、単位を授与されるには、授業回数の5分の4以上の出席が必要です（15回ある授業の場合、12回以上の出席が必要）。

| 該当科目 |
|---------------------|
| 初年次ゼミⅠ・Ⅱ |
| 英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB |
| 英会話A・B・C・D・E |
| SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| キャリアデザインⅠ・Ⅱ |

※前頁以外の一部科目についても、教育効果に鑑み、厳しい出席要件が課される場合があります。

◇授業を欠席する場合の留意点

- ① 本学に「公欠」はありません。
- ② 教務センターから科目担当教員への取り次ぎは行いません。
- ③ 障がいを持つ学生に対して、合理的配慮に基づいて学修支援を行う場合は、個別の対応を行います。

スポーツ・ライフスキル科目（SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の受講について

スポーツ・ライフスキル科目については、京都亀岡キャンパスで受講します。また、京都太秦キャンパス通学者がスポーツ・ライフスキル科目を京都亀岡キャンパスで受講する日は、情報リテラシーⅠ、英語科目の一部を京都亀岡キャンパスで開講します。授業時間に合わせてキャンパス間バスを利用してください。

※このバスは受講人数に合わせて運行しています。乗車マナーを守り、後部座席から着席してください。

※看護学科・言語聴覚学科のスポーツ・ライフスキル科目は、京都太秦キャンパスで受講します。

教務センター窓口

履修登録をはじめ授業に関して分からない事があれば、教務センターへ問い合わせてください。

《京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス 窓口取扱時間》

| | |
|-----|------------|
| 月～金 | 8:30～17:00 |
|-----|------------|

※土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。

第1部 履修の心得

I. 履修をはじめるとあって

大学は、「学生が自主的に学ぶところ」です。つまり、大学は一方的に教えられる場所ではなく、自ら考え、自らの意見を形成していく場所です。

4年間を通じての学修プランを立て、卒業時には「この点については特に学修した」と言えるようになることが必要です。学修は、自分のためにするものです。また、文章を書く力、議論をする力、深く考え学修する力、新しい発想を創造する力等々は、社会に出てからも必要となる非常に大切な力であり、大学の授業を通じてこれらの力を向上させる努力が大切です。

1. 単位制について

(1) 単位制

大学は、単位制をとっています。単位制とは、所定の授業科目を一定の基準に従い履修し、科目ごとに定められた単位を修得する制度です。

(2) 単位

単位とは、学修に要する時間を表す基準です。単位の修得はそれぞれの科目について所定の時間を履修し、試験その他大学が定める適切な方法により合格と判定され初めて単位を修得できます。この単位の集積をもって卒業に必要な単位数を満たしていくことになります。

おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で、大学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとしています。

- ① 講義・演習科目は、15～30 時間の授業時間をもって 1 単位とします。

(例) 講義科目の単位算出

90 分の授業は、2 時間とみなして計算しますので、2 時間×15 回=30 時間の授業時間数となります。

15 時間の授業時間をもって 1 単位とみなす科目では、30 時間で「2 単位」になります。

- ② 実験、実習、実技科目は、30～45 時間の実験、実習又は実技をもって 1 単位とします。
③ 自主的学習時間と単位の関係

1 単位の内容は 45 時間の学修を基準としています。

30 時間の授業をもって 1 単位とする場合には、1 単位について 15 時間の自主的学習が必要です。

15 時間の授業をもって 1 単位とする場合には、1 単位について 30 時間の自主的学習が必要です。

(例①) 2 単位 15 回授業の場合



(例②) 1 単位 15 回授業の場合



(3) 卒業の認定

学則で規定されている卒業に必要な単位（要卒単位）を修得し、かつ所定年数以上在学した場合に卒業となります（p.24「X. 卒業と学位」を参照）。なお、授業科目には要卒単位として算入される科目と、算入されない科目（資格課程等の取得を目的として修得する科目など）があります。

Ⅱ. 授業科目の開設について

1. 受講時のマナー

大学の授業において守るべき最低限のマナーには次のようなものがあります。みなさん自身でより良い受講環境をつくりましょう。

- ・私語をしない。
- ・携帯電話・スマートフォン・音楽プレーヤー等は、指示がない限り使用しない。
- ・途中入退室をしない（手洗いにいく場合や体調不良・通院などの理由で途中入退室が必要な場合は科目担当教員に申し出ること）。
- ・原則として、飲食をしない。
- ・教室内では帽子を取る（事情があって帽子着用の必要な学生は、事前に科目担当教員に申し出ること）。
- ・学生証の貸し借りをしない（発見した場合は、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づき対処します）。

マナーを守らない学生には、科目担当教員がその都度注意しますが、改善が見られない場合には、退室を命じる、単位を授与しないなど、厳しく対処します。

2. セメスター制

セメスター制とは、1つの授業を学期（セメスター）ごとに完結させる制度です。1つの授業を1年間通じて実施する通年制における春学期・秋学期の区分とは異なります。入学時期ごとの年次・学期（セメスター）の関係は、次の通りです。

（春学期入学の場合）

| 年次 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 学期 | 春学期 | 秋学期 | 春学期 | 秋学期 | 春学期 | 秋学期 | 春学期 | 秋学期 |
| セメスター | 1セメスター | 2セメスター | 3セメスター | 4セメスター | 5セメスター | 6セメスター | 7セメスター | 8セメスター |

（秋学期入学の場合）

| 年次 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 学期 | 秋学期 | 春学期 | 秋学期 | 春学期 | 秋学期 | 春学期 | 秋学期 | 春学期 |
| セメスター | 1セメスター | 2セメスター | 3セメスター | 4セメスター | 5セメスター | 6セメスター | 7セメスター | 8セメスター |

3. 授業時間帯

京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス

| 1 講時 | 2 講時 | 3 講時 | 4 講時 | 5 講時 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 9:00~10:30 | 10:40~12:10 | 13:00~14:30 | 14:40~16:10 | 16:20~17:50 |

4. 試験時間帯

京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス

| 1 講時 | 2 講時 | 3 講時 | 4 講時 | 5 講時 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 9:00~10:00 | 10:40~11:40 | 13:00~14:00 | 14:40~15:40 | 16:20~17:20 |

※一部の学部において、試験時間 90 分の科目があります。対象科目は定期試験時間割で確認してください。

5. 休講

- (1) 授業は、休講することがあります。休講連絡は「先端なび」で行います。
- (2) 休講の掲示がなく、授業開始後 30 分以上経過しても科目担当教員が入室しない場合は、教務センターに問い合わせる指示を受けてください。

6. 気象警報発令、あるいは公共交通機関に遅延等があった場合の授業および試験の取り扱い

(1) 気象警報が発令された場合

京都府南部京都・亀岡（京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町のいずれか）に「特別警報」「暴風警報」「暴風雪警報」のいずれかが発令された場合の対応は、以下のとおりとします（両キャンパス対象）。

| 警報解除時刻 | 授業および試験開始講時 |
|------------|-------------|
| 7時まで解除 | 1 講時から実施 |
| 10 時まで解除 | 3 講時から実施 |
| 10 時を過ぎて解除 | 全講時休講 |

(注) 「大雨警報」「洪水警報」「大雪警報」は、原則として、休講の対象にはなりません。ただし、特例的に休講にする場合があります。その場合は、本学 HP および「先端なび」に掲示を行います。

※ 授業開始後に対象警報が発令された場合は、原則として、以降の授業は休講となります。

※ 「特別警報」が発表されたときは、ただちに命を守る行動をとってください。当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記の「(2) 公共交通機関が遅延した場合」に準じて対応してください。

(2) 公共交通機関が遅延した場合

当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記の対応をとってください。

- ① 授業（授業内試験を含む）に出席できなかった場合
当日中に科目担当教員に申し出て、指示に従うこと。
- ② 期末定期試験に出席できなかった場合
追試験の対象となります。
詳細は p.17 「2. 追試験」参照のこと。

7. 開講キャンパス

本学で開講されている科目は、京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパスのどちらかで開講されています。キャンパス間の移動は、キャンパス間バス、もしくは公共交通機関を利用してください。キャンパス間移動をする際は、移動時間を十分考慮しましょう。

Ⅲ. 履修登録

1. 履修登録

履修登録は、セメスターごとに実施しており、セメスターごとの履修登録が必要です。正しく履修登録していない科目は、授業に出席したとしても、単位を修得することができません。

履修登録完了後、「先端ナビ」で正しく登録されているか確認してください。

2. 履修登録に関する注意事項

履修登録を行う際には、以下の点に注意をしてください。

履修登録は、すべて自己責任において行ってください。

- 必修科目は他の科目より優先して登録してください。
- 科目ごとの履修要件を守ってください。
- 同一授業時間に、2科目以上を登録することはできません（全授業回をオンデマンド型のオンライン授業で実施する遠隔科目は除く）。
- 単位を修得した科目を再度履修することはできません。
- 履修登録制限単位数を超えて登録することはできません。

3. 履修登録制限（CAP 制）

学修の質および学修時間の確保のため、1セメスター（または年間）で履修できる科目の上限単位数を設けています。各学科で定められた制限単位数を超過して履修登録することはできません。

※履修登録制限に、次の科目は含まれません。

| 該当科目 |
|-----------------|
| 海外研修ⅠA・ⅠB・ⅠC・Ⅱ |
| 企業実習Ⅰ・ⅡA・ⅡB・Ⅲ |
| インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |
| フィールド・スタディA・B・C |

4. 遠隔科目の履修について

大学設置基準に基づき、卒業要件に含めることができる遠隔科目の単位数は60単位を上限とします。なお、60単位の上限は、あくまで要卒単位として算入できる遠隔科目の単位数の上限なので、60単位を超えて遠隔科目の履修をすること自体は可能です。また、遠隔科目であっても、要卒単位に算入されない科目については、60単位上限には含まれません。要卒単位数および遠隔科目の単位数は、学生自らの責任において自己管理すべきものです。60単位の上限をしっかりと意識したうえで、上限を超えないように単位数を計算し、履修登録を行ってください。

遠隔科目に分類される授業は、「先端ナビ>共通>ドキュメント>遠隔科目一覧」で確認してください。また、シラバスにおいても、授業区分で遠隔科目に分類される授業を確認できますので、単位数の計算の際に参考にしてください。

[本学における対面/遠隔の授業区分]

遠隔授業の時間数が全授業時間数の半数を超えない場合は対面科目、超える場合は遠隔科目です。

| 本学での区分 | 授業形態の詳細 | 60 単位上限の適用 |
|--------|---|------------|
| 対面科目 | 対面授業のみ | × |
| | 対面授業 ≥ 遠隔授業となる授業 (例：授業回数 15 回の内 1~7 回で遠隔を取り入れた授業) | × |
| 遠隔科目 | 遠隔授業 > 対面授業となる授業 (例：授業回数 15 回の内 8~14 回で遠隔を取り入れた授業) | ○ |
| | 遠隔授業のみ | ○ |

※遠隔授業：ライブ中継型、またはオンデマンド型のオンライン授業。

5. 科目の区分／履修登録の形態

(1) 科目の区分

- 必修科目：卒業要件（もしくは進級要件）として必ず単位を修得しなければならない科目。単位が修得できなかった場合、当該科目を翌 Semester以降に再履修しなければなりません。
- 選択科目：自分の興味や進路に沿って選択して履修する科目。卒業要件で指定された単位数以上を修得しなければなりません。

(2) 履修登録の形態 ※詳細は、各学部（各学科）のオリエンテーションで確認してください。

①一括登録科目 <登録作業：教務センター>

受講があらかじめ決められており、教務センターが一括で履修登録する科目。主にクラス分け等の理由により、登録クラスが決められている必修科目が該当します。

②抽選登録科目 <登録作業：学生>

受講生数に定員のある科目（他学部受講科目*含む）。定員以上の受講希望者があった場合、選抜条件にしたがって受講者を決定します。受講について成績等の条件が課されることがあります。

抽選登録の手続きを経て受講が許可されれば、必ず受講しなければなりません。（受講辞退不可）

※ 他学部受講科目とは他学部における専門科目のうち、広く受講が許可された科目です。

③通常の履修登録科目 <登録作業：学生>

上記①②以外の科目。

6. 履修登録科目の追加・取り消し

上記「③通常の履修登録科目」に限って、各学期の第2週目まで（学年暦①～②の期間）、学生自身で、履修登録の追加・取り消しをすることができます。ただし、授業開始後に履修登録の追加をした場合、登録前の期間は欠席扱いとなります。また、同一授業時間に2科目以上を登録している場合、その科目は全て欠席扱いとなります（全授業回をオンデマンド型のオンライン授業で実施する遠隔科目は除く）。卒業に必要な単位数等を十分考慮し、履修登録科目の追加・取り消しを行ってください。

※インターンシップ（企業実習）プログラム（インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の取り消しについては、P.63を参照してください。

※履修登録科目の追加・取り消しにより、履修登録科目修正の必要が生じた場合にのみ、各学期の第3週目に（学年暦③の期間）に、教務センターにて、履修登録科目の追加・取り消しをすることができます。

7. 科目ナンバリング

「科目ナンバー」は、「第2部」各学科の授業科目一覧に掲載しています。履修科目を選択する際に活用してください。

(1) 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を附番し分類することで、学修の段階や順序、授業科目の関係性等を表し、学内外に教育課程の体系性を明示する仕組みです。このナンバリングは、履修登録をする際、適切な授業科目を選択する目安ともなります。

(同じ科目名の科目であっても、学科によって異なる科目ナンバーを付している場合があります。)

(2) 科目ナンバリングの構成

科目ナンバーは、以下のような8桁の英数字から構成されています。

(1桁目) (2桁目) (3桁目) (4桁目) (5桁目) (6桁目) (7～8桁目)

D F 1 1 1 2 01

(大学共通/未来展望/入門レベル/講義形式/DP1.1関連/2単位科目/通し番号)

[科目ナンバー一覧]

| (1桁目) 開講学部・学科等コード | | (2桁目) 科目区分コード | | (3桁目) レベルコード (授業科目の難易度、 履修に適した学年等) | | (4桁目) 授業形態コード | | (5桁目) 学位授与の方針 (授業科目に最も関連する ディプロマ・ポリシー) | | (6桁目) 単位数 | (7～8桁目) 通し番号 | | |
|----------------------|-----|------------------|------------------|---|-------|------------------|----------|---|-------------------|--------------|-----------------|-----------|--|
| 大学共通 | D | 現代リベラルアーツ科目 | 未来展望科目 | F | 入門～基礎 | 1 | 講義 | 1 | DP 1.1 (知識・理解) | 1 | 修得できる単位数 | 科目区分の通し番号 | |
| | | | 学際コア科目 | C | 基礎～専門 | 2 | 講義・演習 | 2 | DP 2.1 (技能) | 2 | | | |
| | | | 初年次科目 | U | 専門～応用 | 3 | 演習 | 3 | DP 2.2 (技能) | 3 | | | |
| | | | アカデミック・リテラシー科目 | A | 応用～発展 | 4 | 実験・実習・実技 | 4 | DP 3.1 (思考・判断・表現) | 4 | | | |
| | | | 英語科目 | E | | | 学外実習 | 5 | DP 3.2 (思考・判断・表現) | 5 | | | |
| | | | 日本語科目 | J | | | 卒業研究 | 6 | DP 4.1 (関心・意欲・態度) | 6 | | | |
| | | | 第二外国語科目 | L | | | その他 | 9 | DP 4.2 (関心・意欲・態度) | 7 | | | |
| | | | 海外研修 | K | | | | | | | | | |
| | | | スポーツ・ライフスキル科目 | S | | | | | | | | | |
| | | | キャリア教育科目 | R | | | | | | | | | |
| | | | フィールド・スタディ科目 | D | | | | | | | | | |
| | | | 入門科目 | A | | | | | | | | | |
| | | | キャリア科目 | R | | | | | | | | | |
| 経済経営 | E B | 専門科目 | 経済学 | L | | | | | | | | | |
| | | | 経営学 | I | | | | | | | | | |
| | | | 演習科目 | G | | | | | | | | | |
| 人文 | H P | 専門科目 | 歴史文化 | B | | | | | | | | | |
| | | | 心理学 | I | | | | | | | | | |
| | | | 基礎科目 | B | | | | | | | | | |
| 環境 | C V | 専門科目 | 生物環境 | S | | | | | | | | | |
| | | | 生命科学 | M | | | | | | | | | |
| | | | 専門科目 | S | | | | | | | | | |
| 看護医療 | N R | 専門科目 | 看護学 | S | | | | | | | | | |
| | | | 言語聴覚 | M | | | | | | | | | |
| | | | 基礎科目 | B | | | | | | | | | |
| 健康医療 | T | 専門科目 | 健康スポーツ | O | | | | | | | | | |
| | | | 実習科目 | P | | | | | | | | | |
| | | | 実技科目 | Q | | | | | | | | | |
| 工 | M | 現代リベラルアーツ科目 | 初年次科目 (工学部) | U | | | | | | | | | |
| | | | 英語科目 (工学部) | E | | | | | | | | | |
| | | | 日本語科目 (工学部) | J | | | | | | | | | |
| 工 | M | 専門科目 | キャリア教育科目 (工学部) | R | | | | | | | | | |
| | | | ロジカル思考基礎科目 (工学部) | T | | | | | | | | | |
| | | | 専門共通科目 | C | | | | | | | | | |
| 工 | M | 専門科目 | 専門科目 | M | | | | | | | | | |
| | | | 実験・実習科目 | X | | | | | | | | | |
| | | | 総合演習科目 | G | | | | | | | | | |

Ⅳ. 出席管理システムについて

本学では、出席管理システムを導入しています。毎講時、授業が始まる際に教室に設置されているタッチパネル式の出席管理システム端末に学生証をかざすと、自動的に出席状況が登録されます。

必ず学生証を携帯し、各授業の際にかざしてください。これを行わないと、たとえ出席していても欠席の扱いとなってしまいます。学生のみなさんの出席・遅刻の情報は「先端なび」で一元管理されます。科目担当教員は、このシステムに登録された出欠情報に基づいて出欠の確認を行うことを原則としますが、担当教員によっては授業終了時の小テスト提出など他の要件を課す場合もあります。

1. 出席・遅刻・欠席の扱いについて

授業開始の8分前から、出席データの読み取りが可能となります。

授業開始から5分後に、遅刻の扱いへ切り替わります。

授業開始から20分以降は、欠席として扱います。

※1回の遅刻（授業開始後5分から20分の間）は、それ自体では欠席とはなりません。遅刻をどのように扱うかについては、科目担当教員が判断します。

2. 出席の不正行為について

学生証の貸し借りは出席の不正行為とみなし、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づき対処します。

3. 出席票の交付について

学生証紛失による再発行手続中や、学生証を忘れた場合は、授業開始前に教務センターで「出席票」の交付を受け、授業で提出してください。

なお、「出席票」交付の際には、身分証明書が必要です。

V. 試験

1. 定期試験

一部の授業を除き、原則として学期ごとに定期試験が行われます。定期試験は、日頃の学修の到達点を確認する重要なものです。また、本学では定期試験を厳正に執行しています。

定期試験の種類には、主として次の3種類があります。なお、複数の方法を組み合わせて実施される場合もあります。

- ①筆記試験
- ②レポート試験
- ③実技試験

(1) 定期試験の時間

① 試験時間割

定期試験の時間割は、原則として試験開始の2週間前に「先端なび」上で発表します。

② 試験時間帯

京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス

| 1 講時 | 2 講時 | 3 講時 | 4 講時 | 5 講時 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 9:00~10:00 | 10:40~11:40 | 13:00~14:00 | 14:40~15:40 | 16:20~17:20 |

※一部の学部において、試験時間 90 分の科目があります。対象科目は定期試験時間割で確認してください。

(2) 試験に関する注意事項

【筆記試験】

- ① 試験会場には、学生証を必ず持参すること。
- ② 学生証を忘れた場合は、教務センターで「受験許可証」の交付を受けること。
- ③ 指示された試験会場で受験すること。
- ④ 試験開始 15 分前には、試験会場に入室していること。
- ⑤ 試験開始時刻から 20 分以上遅刻した場合は受験資格を失います。
- ⑥ 試験開始後 30 分以上（試験時間が 90 分の科目は 45 分以上）経過し監督者が認めた場合には、途中退出することができません。

◇筆記試験の受験上の注意事項

- ① 試験会場では、試験監督者の指示・注意に従うこと。
- ② 学生証の「顔写真」は、試験監督者によく見えるように机の上に置くこと。
- ③ スマートフォン等の電子機器類は、試験中は必ず電源を切り、カバンの中に入れること。
- ④ 持込許可品以外の物品は、カバンの中に入れること。
- ⑤ 不正と疑われる行為を発見した場合には、次頁「(3) 不正行為」に記された内容で処分します。
- ⑥ 答案を無効として取り扱う場合
 - ・答案が無記名の場合（学籍番号・氏名、どちらか一方が記入されていない場合でも無効となります）
 - ・指定された場所に答案を提出していない場合

【レポート試験】

① レポートの課題

原則として、「先端なび」に掲示します。ただし、授業中に口頭連絡で提示される場合もあります。

- ② 提出期限について
提出期限については、科目ごとに担当教員が指定します。
- ③ 提出方法
原則として、「先端なび」上で提出。

◇レポート提出に関する注意事項

授業中に提出するように指示された場合は、授業中に提出してください。授業に遅刻・欠席し提出できない場合も、教務センターでは一切受け付けていません。提出期限に余裕を持って提出してください。なお、教員の電話番号・住所等の公開はしていません。

◇剽窃行為について

授業で課せられるレポートや論文を作成する際には、書籍等の著作物や Web サイトで他人の考えを参考にしたり、データを分析しながら、自分の考えを叙述することが求められます。著作物や Web サイトの記載をそのまま無断で引用する剽窃（ひょうせつ）行為（コピー＆ペースト等）は、社会的に許されない行為であり、他者の著作権を侵害する違法な行為となる場合もあります。剽窃行為が発見された場合は、本学として以下の通り対処します。

[剽窃行為についての本学の対処]

- ① レポート等の提出物を評価する教員が剽窃行為であると判断した場合は、当該提出物の評価は0点とする。
- ② 他の学生が作成したレポート等を自分が作成したかのように記述してレポート等を提出した場合、剽窃行為を行った学生だけでなく、同行為を行った学生に自分のレポート等を見せた学生についても、提出物の評価は0点とする。

[生成系 AI についての本学の対応]

本学では、生成系 AI が提供する文章や情報を、大学で履修する授業の学修成果として提出する課題やレポートなどの成果物に、そのまま利用することは認めていません。本学に提出する成果物は自分で書いた文章で構成され、他所の情報を引用する場合は必ず正確に出典を表記することを求めています。提出された成果物において生成系 AI の利用が発覚した場合は、剽窃行為とみなすなど厳正に対処します。

(3) 不正行為

次の行為が、不正行為にあたります。

- ① 代理人による受験、または受験を他人に依頼した場合
- ② 持込許可品以外の物品を持ち込み、またそれらを参照した場合
- ③ 筆記用具や持込許可品などを貸借した場合（貸した側、借りた側双方が処分されます）
- ④ 机等に不正な書き込みをして受験した場合
- ⑤ 解答用紙の交換、筆写を行った場合
- ⑥ 口頭等により不正な連絡を行った場合
- ⑦ 解答用紙を持ち帰った場合
- ⑧ 監督者の指示に従わなかった場合

定期試験・レポート試験中に学生が不正行為通告書を提示された場合は、試験終了後に事情聴取を受けることになります。その後、調査委員会が不正行為と認定した場合は、当該学生は受験資格を喪失し、自宅待機を命じられます。

[不正行為に対する処分]

学生が不正行為を行った場合は、大学による厳正な処分を受けます。成績評価については、不正行為を行った科目だけでなく、そのセメスターに履修したすべての科目が「不合格（F）/素点：0点」とされ、単位が授与されません（ただし、学部学科が指定した学外実習科目等は除く）。さらに懲戒処分として、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づいて、厳正に対処します。

(注) 「大学コンソーシアム京都」、「放送大学」開設科目において不正行為を行った場合

他大学・短期大学等が開設する科目において不正行為があった場合は、科目を開設する大学・短期大学等が決定した処分に加え、本学においても厳正な処分を行います。

2. 追試験

追試験は、下記表の事由により定期試験を欠席し、所定の手続きにより許可された場合にのみ、受験することができます。願い出により実施される試験です。

(1) 受験資格

追試験を申請できるのは、定期試験を次の事由により受験できなかった場合で、かつ証明書が入手できる場合に限られます。

| | 事由 | 証明書 | 備考 |
|----|---|----------------------|--|
| 1 | 学校保健安全法施行規則 18 条で定める感染症に罹患し、大学が出席停止を求めた場合 | 医師の診断書 | 加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書 例：インフルエンザの場合、出席には発症から 5 日、解熱から 2 日経過していることが必要 |
| 2 | 公共交通機関の連休・遅延 | 連休・遅延証明書 | WEB からダウンロードした遅延証明書を提出する場合、各公共交通機関 HP に掲載されているリアルタイムの交通状況の画面（スクリーンショットしたもの）も提出が必要 |
| 3 | 3親等以内の慶事・忌引き | 案内状、招待状、会葬礼状、葬儀証明書など | |
| 4 | 自己の責めに帰さない不慮の事故または災害 | 事故証明書など | 診断書の提出を求める場合もある。車、バイク、自転車での通学途上での故障・交通渋滞による遅延は含まない。 |
| 5 | 課外活動 | 公式大会要項など | 体育連合協議会、文化連合協議会所属団体の内、部として認められている団体に限る。参加者名簿を添付すること。 |
| 6 | 教員免許取得にかかる教育実習・介護等体験および博物館実習 | 教務センターの証明書 | |
| 7 | 資格試験・就職試験 | 受験証明書など | |
| 8 | 単位互換科目（大学コンソーシアム京都・放送大学）の授業・試験と重複する場合 | 受講・受験証明書 | |
| 9 | 1 以外の病気・怪我で医師が加療を指示した場合 | 医師の診断書 | 加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書 |
| 10 | その他大学が正当と認めた事由 | 大学が指示する証明書 | 補講との重複など |

(2) 申請手続き

当該科目の試験終了後 2 日以内（試験当日・土日祝を含まない）に、追試験申請書に所定の証明書を添えて、教務センター窓口にて速やかに提出してください。

※ 指定された追試験日時に受験できなかった場合は、受験資格を失います。

3. 再試験

試験（追試験含む）の結果「不合格」と判定された場合、特定の科目（再試験対象科目）については、再試験を受けることができます。ただし再試験に対する追試験は実施しません。再試験で合格となった場合の成績評価はすべて（60点「C」）となります。また再試験で「不合格」となった科目は、以後のセメスターに授業を再履修することになります。

（1）受験資格

再試験実施科目の科目担当教員が認めた場合に受験できます。

（2）申請手続き

再試験の受験対象者には、「先端なび」を通じて教務センターより連絡します。再試験の受験を希望する場合は、試験前に配布される「実施要領」に従い申請してください。再試験受験には、1科目につき受験料3,000円が必要です。

※ 指定された再試験日時に受験しない場合は、当該科目は「不合格（F）」となります。

※ 「1.定期試験」「2.追試験」「3.再試験」以外に、科目担当教員の判断で、適宜授業内に試験が実施される場合があります。

※ 「2.追試験」「3.再試験」における不正行為の扱いは、「1.定期試験」に準じます。

VI. 成績・GPA

1. 成績評価

成績評価は、シラバスに記載されている成績評価方法に従って行われます。合格した科目は、取り消したり、再度履修登録したりすることはできません。

2. 成績

| | 評価 | | 成績表への記載 | 成績証明書への記載 |
|-----|----|--------|---------------|-----------|
| | 記号 | 素点 | | |
| 合格 | S | 100～90 | 記号表記と 素点表記 | 記号表記 |
| | A | 89～80 | | |
| | B | 79～70 | | |
| | C | 69～60 | | |
| | N | N | 記号表記 | |
| 不合格 | F | 59～0 | 記号表記と素点表記 | 表記なし |

※ 記号「N」は「認定」を表します。単位互換等で認定された科目は、「N」と記載されます。

3. 成績発表

各学期の成績は、春学期は9月上旬頃、秋学期は3月中旬頃に、「先端なび」で発表します。

4. GPA

本学では、GPA (Grade Point Average) を導入しています。GPA とは大学の成績評価を数値化したもので、学力を測る指標となっています。GPA は、「先端なび」で確認できます。

※GPA 値は、学内における奨学金審査等で用いられています。成績基準として GPA 値が各種奨学金やその他の申請等の条件となる場合には、別途募集要項等に記載します。

(1) 本学の GPA 換算法

(計算式)

$$\text{GPA} = \frac{(4 \text{ ポイント} \times \text{Sの科目の単位数合計}) + (3 \text{ ポイント} \times \text{Aの科目の単位数合計}) + (2 \text{ ポイント} \times \text{Bの科目の単位数合計}) + (1 \text{ ポイント} \times \text{Cの科目の単位数合計}) + (0 \text{ ポイント} \times \text{Fの科目の単位数合計})}{\text{総単位数 (履修登録科目の単位数)}}$$

GPA 換算時の対象科目は、履修登録をしたすべての科目となります。不合格となった科目も対象となり、分母に加算されます。また、再履修した科目はすべての成績が対象となり、分母には延べ単位数が加算されます。

※卒業要件に算入しない資格科目は除きます。

※大学コンソーシアム京都単位互換科目、留学によって修得した認定科目、外部試験公式スコアにより単位認定された科目など（評価が「N」と表される科目）は除きます。

5. 成績表記調査

シラバスに記載された評価基準、および授業の中での評価基準の説明を十分に理解した上で、明らかに自分の成績が誤りであると考えられ、それを具体的に説明できる場合、成績表記調査を申し出ることができます。

申請方法：申請方法および申請期間については、「先端なび」よりお知らせします。

受付：成績表記調査の申請内容を確認して、明らかに成績表記に誤りがあると思われる場合は、受け付けます。

回答：「先端なび」より回答します。

注意：成績表記が誤りであるケースは極めて少なく、学生本人が評価方法や授業中の説明を理解していないために、成績表記が誤りであると思い込んでいるケースが大半です。事前に十分に検討してください。

VII. 単位授与及び認定

1. 単位授与

授業科目を履修し、原則として春学期末または秋学期末に行われる試験に合格した者には、所定の単位が与えられます。

試験の方法は、p.15「V.試験」に示した筆記試験・レポート試験・実技試験などがありますが、科目によっては通常の授業時の成績を試験成績とすることがあります。

出席日数が不足している、あるいは途中で受講を放棄した場合は、その科目の単位は授与されません。

2. 単位授与の時期

単位授与は、原則として9月・3月（各学期終了後）に行います。

単位授与されるには、単位授与時期に、学籍状態が「在学」または「留学」中である必要があります。（「休学」中の場合は、単位授与されません）。

3. 他大学等で修得した単位の認定

教育上有益と認められた場合は、海外留学や国内留学、単位互換制度等を履修することができます。修得した単位は、60単位を限度とし学部教授会の審議を経て卒業認定単位として認めることがあります。なお、上限60単位とは、個々の留学プログラムや単位互換制度ごとではなく、他大学等で修得した総単位数の上限となります。また、各学期の履修登録制限単位数を超えて認定することは出来ませんので、注意してください。

Ⅷ. 進級要件

1. 進級要件

進級するためには、各学年において学科で定めた要件を満たすことが必要です。

【経済学科、経営学科、心理学科、歴史文化学科、健康スポーツ学科】

| | 1 年次終了時 | 2 年次終了時 | 3 年次終了時 |
|-----------------------------------|-------------------|---|----------------------|
| 修得単位数※ | — | 64 単位以上 | — |
| 単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」 必修科目 | — | 18 単位以上 | — |
| 単位修得が必要な 専門科目 | — | 経済学科：マクロ経済入門 ミクロ経済入門、 経営学科：経営戦略入門、 会計学入門 心理学科： 「臨床心理学基礎演習」「社会・産業基礎演習」「心理学 研究法」より 4 単位以上 | — |
| 在学期間 (休学期間は除く) | 1年次に1年間に在学していること。 | 2年次進級後に1年間に在学していること。 | 3年次進級後に1年間に在学していること。 |

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

【生物環境科学科、応用生命科学科】

| | 1 年次終了時 | 2 年次終了時 | 3 年次終了時 |
|-----------------------------------|-------------------|----------------------|----------------------|
| 修得単位数※ | — | — | 96 単位以上 |
| 単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」 必修科目 | — | — | 25 単位以上 |
| 単位修得が必要な 専門科目 | — | — | — |
| 在学期間 (休学期間は除く) | 1年次に1年間に在学していること。 | 2年次進級後に1年間に在学していること。 | 3年次進級後に1年間に在学していること。 |

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

【看護学科】

| | 1 年次終了時 | 2 年次終了時 | 3 年次終了時 |
|---------------------------|-------------------|--------------------------|--------------------------|
| 単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」 | — | — | 22 単位以上 (卒業要件) |
| 単位修得が必要な 専門科目 | — | 2年次終了時までに関講 した必修科目すべて | 3年次終了時までに関講 した必修科目すべて |
| 在学期間 (休学期間は除く) | 1年次に1年間に在学していること。 | 2年次進級後に1年間に在学していること。 | 3年次進級後に1年間に在学していること。 |

【言語聴覚学科】

| | 1 年次終了時 | 2 年次終了時 | 3 年次終了時 |
|---------------------------|----------------------|--------------------------|--------------------------|
| 単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」 | — | — | 29 単位以上（卒業要件） |
| 単位修得が必要な 専門科目 | — | 2年次終了時までに関講 した必修科目すべて | 3年次終了時までに関講 した必修科目すべて |
| 在学期間 （休学期間は除く） | 1年次に1年間在学してい ること。 | 2年次進級後に1年間在学 していること。 | 3年次進級後に1年間在学 していること。 |

【機械電気システム工学科】

| | 1 年次終了時 | 2 年次終了時 | 3 年次終了時 |
|-----------------------------------|----------------------|-------------------------------|-------------------------|
| 修得単位数※ | — | — | 88 単位以上 |
| 単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」 必修科目 | 微分積分と線形代数 I | 英語科目より必修 10 単位 を含む 18 単位以上 | — |
| 単位修得が必要な 専門科目 | 物理工学 I | — | キーストーンプロジェクト |
| 在学期間 （休学期間は除く） | 1年次に1年間在学してい ること。 | 2年次進級後に1年間在学 していること。 | 3年次進級後に1年間在学 していること。 |

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

Ⅸ. 学修者本位の学び

1. 学修者本位の学び

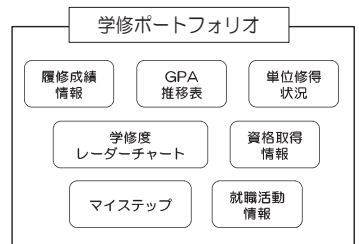
本学の教育課程（カリキュラム）によって身につく力は、現代のリベラルアーツとしての「グローバル社会を生き抜く力」です。大学・学部・学科は、それぞれ「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）」として、学生の卒業要件を定めています（履修要項 p.2、および各学部・学科ページ参照）。

また、文部科学省の指針により、高等教育のあり方は、大学が学生に対して「何を教えるか」ではなく、学生自身が目指す姿になるために「何を学び、身に付けるのか」に変わってきました。この、学生が自らの学修の成果を実感しながら必要な能力を身に付けていくことを「学修者本位の学び」と呼びます。

「学修者本位の学び」を効率よく進めるツールとして、先端なびには「学修ポートフォリオ」と「マイステップ」が用意されています。

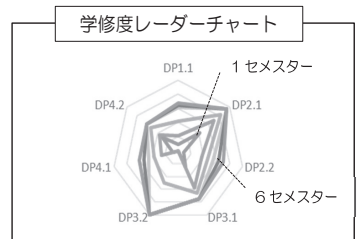
2. 学修ポートフォリオ

学修ポートフォリオは、学生一人ひとりの学修情報（履修成績情報、資格、GPA 推移、単位修得状況）から就職活動情報までを一元的に確認できるツールです。そのなかには「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）」への到達度を可視化した「学修度レーダーチャート」があります。また、これは学修の自己管理ツール「マイステップ」とも連携しています。学修ポートフォリオを上手に活用することにより、自分自身の成長（学修進捗度）を GPA だけではなく、より広い視点から確認してください。



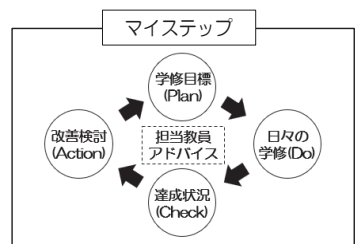
3. 学修度レーダーチャート

各授業科目は「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）」の 7 項目に割り付けられています。学修度レーダーチャートとは、学生の DP に対する伸長状況を、セメスターごとに修得した科目の成績も考慮して算出し、可視化したものです。上級生になるにつれ、また成績上位になるにつれ、相対的にレーダーチャートの面積は大きくなります。各 DP に対して伸びている点、欠けている点がわかりますので、自分の学修到達度を把握するとともに、翌セメスターの履修登録時の検討材料にしてください。



4. マイステップ（学修の自己管理ツール）

「学修者本位の学び」を進めるには、学生自身が「学修目標を立てる（Plan）」「日々の学修を行う（Do）」「達成状況をチェックする（Check）」「改善検討を行う（Action）」、翌セメスターにはまた「新しい学修目標を立てる（Plan）」という PDCA サイクルを回す必要があります。マイステップは、セメスターごとに「アセスメントテスト」等の結果を参考にして学修目標・達成状況・改善ポイント等を入力することで、学修の自己管理ができるツールになっています。学修目標設定時と成績発表時には、担当教員から面談等を通して入力内容に対するアドバイスがフィードバックされますので、それらも参考にしながら、自身が目指す姿になるための取り組みを、主体的に進めてください。



X. 卒業と学位

1. 卒業および学位

卒業するためには、大学が定める教育課程に従って学修し、次の卒業要件をすべて満たす必要があります。

(1) 所定在学年数

8セメスター以上在学し、各学年1年以上在学していること。休学期間は在学年数に含みません。

(2) 所定単位の修得

卒業に必要な単位数（要卒単位数）・必修条件等を満たしていること。

(3) 卒業判定

所定在学年数の要件を満たすことになる在学学生を対象に卒業判定を行います。この卒業判定に合格した場合に、卒業が認められます。

2. 学位

| 学部名 | 学科名 | 学位 |
|---------|-------------|-------------|
| 経済経営学部 | 経済学科 | 学士（経済学） |
| | 経営学科 | 学士（経営学） |
| 人文学部 | 心理学科 | 学士（人文） |
| | 歴史文化学科 | 学士（人文） |
| バイオ環境学部 | 生物環境科学科 | 学士（バイオ環境） |
| | 応用生命科学科 | 学士（バイオ環境） |
| 健康医療学部 | 看護学科 | 学士（看護学） |
| | 言語聴覚学科 | 学士（言語聴覚学） |
| | 健康スポーツ学科 | 学士（健康スポーツ学） |
| 工学部 | 機械電気システム工学科 | 学士（工学） |

3. 卒業見込

(1) 卒業見込証明書とは

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。卒業見込は、卒業を保証するものではありません。

(2) 証明書発行基準

卒業見込証明書の発行基準は次頁のとおりです。

【卒業見込証明書発行基準】

以下の表に記載されている要件に基づき、卒業見込証明書が発行されます。

| 所属学部 | 所属学科 | 卒業に必要な 単位数 | 第7セメスター | 第8セメスター ※第8セメスター開始時に以 下の修得単位数（要卒業単 位数）を満たしていること。 |
|---------|-------------|---------------|-------------------------------------|---|
| 経済経営学部 | 経済学科 | 124 単位 | 3年次終了時に、卒業 見込の有無についてお 知らせします。 | 100 単位以上 |
| | 経営学科 | | | |
| 人文学部 | 心理学科 | 124 単位 | | 100 単位以上 |
| | 歴史文化学科 | | | |
| バイオ環境学部 | 生物環境科学科 | 128 単位 | 4年次に在籍している こと | 108 単位以上 |
| | 応用生命科学科 | | | |
| 健康医療学部 | 看護学科 | 126 単位 | | 121 単位以上 |
| | 言語聴覚学科 | | | 120 単位以上 |
| | 健康スポーツ学科 | 124 単位 | 3年次終了時に、卒業 見込の有無についてお 知らせします。 | 100 単位以上 |
| 工学部 | 機械電気システム工学科 | 128 単位 | 4年次に在籍している こと | 104 単位以上 |

※第7セメスターで卒業見込証明書を発行されていた場合でも、成績次第で第8セメスターでは発行されない場合もあります。

XI. 学籍

学籍は、入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって喪失します。学籍の種類は、在籍（在学・休学・留学）、卒業、除籍、退学などがあります。

1. 学籍番号

入学を許可した者に学籍番号を付与します。学籍番号は、原則として在籍中も卒業後も変わりません。

2. 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明する大切なものです。以下の場合に提示が必要になりますので、常に携帯してください。

- ・定期試験の受験
- ・各種証明書の交付
- ・出席管理システム（p.14「Ⅳ. 出席管理システムについて」参照）
- ・本学教職員等から提示を求められたとき

※学生証の紛失・盗難にあった場合は、教務センターに届け出てください。

※学生証の有効期間は、4年間です。

3. 在籍について

在籍には、在学、休学、留学の3つがあります。

(1) 休学

病気その他の事由により継続して就学できない見込みの場合は、休学を願い出ることができます。

① 休学の願い出

「休学願」に事由を明記して、保証人との連署で願い出てください（病気等で休学する場合は診断書を添付）。感染症、その他の病気のために就学不相当と認められた場合は、学部長が休学を命ずることがあります。

② 休学期間

休学期間はセメスター単位とし、継続して2年を超えることはできません。ただし、特別な理由がある場合（例えば、留学生で母国の兵役により、休学期間が2年を超える場合）は、引き続き1年以内に限り延長することができます。休学の期間は、入学時から通算して4年を超えることはできません。

③ 休学中の学費

休学中は学費の納付を免除します。ただし、休学期間中はセメスターごとに在籍料（10,000円）を納付しなければなりません。

※当該学期の学費を既に納付している場合は在籍料の納付を免除しますが、学費の返還はできません。

(2) 留学

本学が提供する留学プログラムで留学する場合、学部の教授会で審議します。留学が認められた場合、留学期間は、在学年数に算入します。

4. 復学について

休学者が復学を希望する場合、以下の手続期日までに「復学願」を保証人との連署で提出し許可を得る必要があります。病気等で休学していた場合は、就学ができることを証明する書類（診断書等）を添付してください。

・復学の手続期日

春学期末に休学期間が終了する者：休学期間中の8月25日まで

秋学期末に休学期間が終了する者：休学期間中の3月11日まで

※期日までに復学願が提出されない場合は除籍となります。

5. 学籍の喪失

学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合として、卒業と退学、除籍の3種類があります。

(1) 卒業

各学部の修業年限以上在学し、各学部で定める卒業に必要な単位を修得した場合に卒業となり、学士の称号が与えられます。

(2) 退学

事情により、退学するときには所定の手続きが必要となります。

- ・ 原則として、指導担当教員（担任・チューター等）と面談する必要があります。
- ・ 「退学願」に事由を明記して、保証人との連署により学生証を添えて願い出てください。

※懲戒すべき事由で退学した学生は、原則として再入学は認めません。

※退学にあたり、当該学期の学費を既に納入している場合、学費の返還はできません。

(3) 除籍

以下に該当する者は除籍となり、本学の学生の身分を失います。

- ・ 定められた期間に所定の学費を納入しない場合
- ・ 在学期間が8年を超える場合
- ・ 休学期間終了までに所定の手続（復学、休学延長または退学）をしない場合
- ・ 死亡した場合

※除籍された者は、下記「6. 復籍について」の復籍することができる期間においても、休学・退学はできません。

6. 復籍について

上記「5. 学籍の喪失」「(3) 除籍」で学費未納の場合に限り、除籍措置の日から1ヵ月以内であれば、願い出により復籍することができます。所定の学費を納入し、復籍願に保証人と連署の上、復籍料（10,000円）とともに願い出てください。

除籍措置の日から1ヵ月を超えると、復籍できません。その場合は、再入学の手続きとなります。

7. 再入学

(1) 再入学を願い出ることができるのは、次の事由により学籍を喪失した場合に限ります。

- ① 退学により学籍を喪失した場合
- ② 除籍により学籍を喪失した場合（ただし、在学期間が8年を超えた場合を除く）

(2) 再入学申し出期間

上記①～③の学籍喪失日（退学日・除籍日）より2年以内で、再入学しようとする前学期の1月末日または7月末日まで。

(3) 再入学金

再入学を希望する場合は、再入学金（再入学する年度の入学金の2分の1）が必要です。

※改組・転換等により、退学・除籍以前に在学していた学部学科が開設されていない場合は、現在開設されている学部学科に変更して出願できますので、出願前にご相談ください。

8. 転学部・転学科

転学部・転学科を希望する場合は、春学期は6月15日、秋学期は1月15日までに教務センターに申請してください。ただし、転学先の学部・学科に欠員のある場合に限り、選考の上、転学を許可します。

京都先端科学大学学籍に関する取扱い 令和7年2月7日制定

（趣旨）

第1条 この取扱いは、京都先端科学大学学則（昭和44年4月1日制定。以下「学則」という。）及び京都先端科学大学大学院学則（平成6年3月14日制定。以下「大学院学則」という。）に規定する学生の学籍異動のうち、休学、復学、除籍、復籍、退学、再入学、転学部・転学科、転学等の取扱いに関し必要な事項を定める。

（学籍）

第2条 京都先端科学大学（以下「本学」という。）及び京都先端科学大学大学院（以下「本大学院」という。）に入学を許可された者に、本学の学籍を与える。

- 2 前項に規定する者に学籍番号を付与し、学生証を交付する。
- 3 学生の学籍に関する情報を管理するため学籍簿を作成する。

(休学)

- 第3条 休学を希望する者は、所定の休学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。ただし、病気による場合は医師又は病院の診断書を休学願に添付しなければならない。
- 2 疾病のため就学することが適当でないと認められる者については、学部長又は研究科長は休学を命じることができ。
 - 3 休学の期間は、学期初日から当該学期末までとし、願い出によって引き続き休学することができる。
 - 4 前項の本学における休学の期間は、継続して2年を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合、引き続き1年以内に限って延長することがある。また、通算して4年を超えることはできない。
 - 5 第3項の本大学院における休学の期間は、通算して2年を超えることはできない。
 - 6 休学期間内は、学費の納付を免除する。ただし、在籍料としてその年度の学期ごとに10,000円を指定の日までに納付しなければならない。ただし、当該学期の学費を既に納付した者については、在籍料の納付を免除する。

(復学)

- 第4条 休学者が復学しようとする場合は、所定の復学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。ただし、病気により休学していた者は、復学して支障のない旨の医師または病院の診断書を添付しなければならない。
- 2 復学の手続期日は、次の各号のとおりとする。
 - (1) 春学期末に休学期間が終了する者 休学期間中の8月25日まで
 - (2) 秋学期末に休学期間が終了する者 休学期間中の3月11日まで
 - 3 復学の時期は学期の始めとする。
 - 4 復学時の在学セメスターは、休学時の在学セメスターとする。
 - 5 第2項において、所定の期日までに復学の手続きをしなかった場合は、その休学期間の末日をもって除籍とする。

(除籍)

- 第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。
- (1) 所定の納入期日までに学費の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しない者
 - (2) 休学期間終了までに所定の手続（復学、休学延長又は退学）をしない者
 - (3) 本学において、休学期間が通算4年または継続して2年を超えてなお復学又は退学しない者
 - (4) 本大学院において、休学期間が通算2年を超えてなお復学又は退学しない者
 - (5) 本学において、在学期間が8年を超える者
 - (6) 本大学院の修士課程において、在学期間が4年を超える者
 - (7) 本大学院の博士課程において、在学期間が、前期4年、後期6年を超える者
 - (8) 正当な理由がなく所定の手続を怠り、就学の意思がない者
 - (9) 死亡した者
 - (10) 留学生のうち、入学後相当期間が経過したにもかかわらず、留学生ビザを取得できなかった者、あるいは在留資格の変更が認められなかった者
 - (11) 留学生のうち、既に取得している留学生ビザの更新が認められなかった者
- 2 除籍された者は、学生証を直ちに返還するとともに、図書等の借用、奨学金の受給等がある場合は、返還又は返済等の手続をしなければならない。
 - 3 第1項第1号の学費未納による除籍の日は、次の各号のとおりとする。
 - (1) 春学期学費未納者については、前年度3月31日付とする。
 - (2) 秋学期学費未納者については、前春学期末日付とする。
 - 4 第1項第2号から第9号までの除籍の日は、その事由の満了日付とする。
 - 5 第1項第10号及び第11号の除籍の日は、外国人留学生内規の定めるところによる。

(復籍)

第6条 学費の未納によって除籍された者が、除籍処置の日から1カ月以内に所定の復籍願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して学部長又は研究科長に提出した場合にのみ、学部長又は研究科長は復籍を許可することができる。

2 復籍を願い出る場合には、復籍料10,000円と未納の学費を納入しなければならない。

(退学)

第7条 病気、その他の事情により退学しようとする者は、所定の退学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。

2 退学する際には、学生証を直ちに返還するとともに、図書等の借用、奨学金の受給等がある者は、それぞれ返還又は返済等の手続を完了しておかなければならない。

3 退学の日は、次のとおりとする。

(1) 学部長又は研究科長が許可した日。

(2) 春学期学費未納者が退学願を提出した場合は、前年度末日付とする。

(3) 秋学期学費未納者が退学願を提出した場合は、春学期末日付とする。

(4) 当該学期履修科目の単位認定を希望する場合は、当該学期末日付とする。但し、学費の未納がある者は、当該学期までの学費の納入手続きを完了しなければならない。

(5) 当該学期における単位認定を受けようとする場合は、原則として、当該学期末日まで在籍していなければならない。但し、学費の未納がある者は、当該学期までの学費の納入手続きを完了しなければならない。

(再入学)

第8条 次の各号のいずれかに該当する者が離籍の日から2年以内に同一学部学科又は同一研究科専攻への再入学を志願する場合は、所定の再入学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。ただし、再入学しても残りの在学期間で卒業・修了の見込みがない者は、再入学の願い出を認めない。

(1) 退学した者

(2) 除籍となった者(ただし、第5条第1項第1号、第2号、第3号、第4号、第8号、第10号及び第11号に該当する者のみとし、第6条において復籍した者は除く。)

2 再入学の手続期日は、再入学を希望する前学期の1月末日又は7月末日までとする。

3 再入学を許可された者は、所定の日までに再入学金及び学費を納入しなければならない。ただし、所定の日までに再入学金と学費とを納入しない場合は、再入学を取り消す。

4 再入学金は、再入学した年度の入学金の2分の1とする。

5 再入学者の学費は、再入学した年次の額とする。

6 再入学の時期は学期始めとする。

7 再入学時のセメスターは、退学又は除籍時の履修状況その他を考慮して定める。

8 再入学を許可された者の在学期間及び休学期間は、退学等前の在学期間及び休学期間をそれぞれ通算し、学則第4条及び大学院学則第6条に定める在学期間を超えることができない。

9 再入学を許可された者には、学籍番号を付与し、学生証を交付し、学籍簿を作成する。

10 改組・転換等により、退学・除籍以前に在学していた学部学科又は研究科専攻が開設されていない場合は、再入学志願時に開設されている学部学科又は研究科専攻へ志願することができる。

(転学部・転学科)

第9条 本学の他学部転学部を志願する者、又は本学の同一学部で転学科を志願する者は、所定の転学部又は転学科願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、志願学部長に提出し、志願学部長の許可を得なければならない。

2 転学部・転学科は、志願する学部・学科に欠員のある場合とする。

3 転学部・転学科の併願及び再転学部・再転学科は認めない。

4 転学部・転学科の時期は学期学年始めとし、学期途中の転学部・転学科はできない。

5 転学部・転学科の手続期日は、転学部・転学科を希望する前学期の1月15日又は6月15日までとする。

6 転学部・転学科を許可された者は、所定の日までに転学部手数料又は転学科手数料10,000円を納入しなければならない。ただし、手数料10,000円を納入しない場合は、転学部・転学科を取り消す。

- 7 転学部・転学科者の学費は、新所属学部学科の年次の額とする。
- 8 転学部・転学科時の在学セメスター及び既修得単位の認定については、新所属学部学科において、修学状況その他を考慮して定める。
- 9 転学部・転学科を許可された者には、現学生証と引換えに学部・学科変更した新学生証を再交付する。

(他大学等への転学)

- 第10条 学部学生が他の大学又は他の大学院等への入学又は転(編)入学を志望する場合は、所定の退学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して学部長に提出し、学部長および学長の許可を得なければならない。
- 2 大学院生が他の大学又は他の大学院等への入学又は転(編)入学を志望する場合は、所定の退学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して研究科長に提出し、研究科長および学長の許可を得なければならない。

学生留学内規 平成 11 年 9 月 17 日制定

- 第 1 条 京都先端科学大学学則(以下「学則」という。)第 14 条に基づく他の大学または短期大学への留学に関しては、学則に定めるもののほか、この内規による。
 - 第 2 条 この内規にいう留学とは、他の大学または短期大学の特定の授業科目を履修するために現地で留まり、本学での履修は行わない場合をいう。
 - 第 3 条 留学の対象となる大学等とは、国内においては留学(単位互換)に関して本学と協定を結んだ大学、外国においては留学に関して本学と協定または合意している大学等、あるいは学位授与権を有する大学等及びこれに相当すると学長が認めた教育機関をいう。
 - 第 4 条 留学できる者は、本学に 1 年以上在学した者でなければならない。
 - 第 5 条 留学する者の学籍上の取扱いは、留学とし、休学扱いしない。留学期間は在学期間に算入する。
 - 第 6 条 留学期間は 1 年以内とする。
 - 2 外国留学で特別の事情がある場合は、1 年以内に限り留学の延長を許可することがある。
 - 第 7 条 留学を希望する場合は、所定の留学願及び留学予定先の留学許可を証する書類の写し等必要書類を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
 - 2 留学の許可は、当該学部教授会の議を経て、学長がこれを行う。
 - 第 8 条 外国留学で留学期間の延長を願い出る場合は、留学延長願を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
 - 第 9 条 留学を終了した者は、指定の留学終了届を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
 - 第 10 条 留学期間中に修得した授業科目の単位を本学の卒業要件の単位として認定を受けようとする者は、留学先大学等の発行した成績証明書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
 - 2 前項の単位の認定は、当該学部教授会の議を経て学部長がこれを行う。この場合の認定し得る単位数は 60 単位を限度とする。
 - 第 11 条 年度の途中から留学する者は、留学前に科目登録し受講している授業科目について、留学終了後に再度科目登録し、継続して履修することができる。ただし、開講している科目に限る。春学期開講科目または秋学期開講科目についても、年度当初または秋学期登録期間に科目登録し、履修することを認める。
 - 第 12 条 留学中の学費の取扱については、本学学費規程によるものとする。
 - 第 13 条 留学している者が当初の目的を達成することができず、学生の本人に反する行為があったと認められるとき、学長は、当該学部教授会の議を経て、留学の許可を取り消すことができる。
 - 第 14 条 外国の語学専門学校のうち、学長が認めた学校における 10 週間以上の語学研修も留学の対象とする。
 - 2 前項の留学を終えて、第 10 条に該当しない授業科目の履修を本学の科目の単位として認定を受けようとする者は、履修時間数及び修了証書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
 - 第 15 条 この内規の改廃は、大学国際部会、各学部教授会及び大学評議会の議を経るものとする。
- 附則省略

第2部 教育課程

健康医療学部 教育目的と3つのポリシー

<健康医療学部の教育目的>

多様な健康状態、発達段階、生活環境にある人々に対して専門的な支援を行い、人々の健康生活の実現と健康寿命の延伸に寄与する人材を育成することを目的とする。

<卒業認定・学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

1. 知識・理解

- 1.1 健康および身体活動分野に関する専門的知識・技能を理解・修得し、それらを健康医療分野における諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

- 2.1 健康医療分野の職業人として、必要な情報およびデータを適切な方法を用いて収集し、活用できる。
- 2.2 対象児・者と信頼関係を築き、生命と健康・医療および人間の行動に関するさまざまな事象をとらえ、的確な方策を立て、実践することができる。

3. 思考・判断・表現

- 3.1 健康医療分野に関して修得した知識・技能ならびに経験を活かして、自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。
- 3.2 自ら設定した健康医療学分野の主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、建設的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

- 4.1 生命と健康医療分野の諸問題に継続的に関心を示し、常に向上心を持って、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
- 4.2 幅広い教養、豊かな感性のもとに、多様な職種の人々とコミュニケーションを取り、協働しながら、自律的な職業人として行動できる。

<教育課程編成・実施の方針> (カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程編成

- 1.1 教育課程として、現代リハビリアーツ科目および専門科目を配置します。
- 1.2 現代リハビリアーツ科目では、職業人としての教養、学術的な基礎力・技能、語学力、協調性を修得することを目的に、リハビリアーツ科目を配置します。
- 1.3 専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成するため、各々の学科に専門科目を系統的に配置します。

2. 学修方法・学修過程

(学修方法)

- 2.1 4年間の教育課程では、各科目を理論的に学修するだけでなく、実習およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

(学修過程)

- 2.2.1 現代リハビリアーツ科目を学修することにより、健康医療分野における職業人となるために必要な基礎的な教養、課題発見力、問題解決能力を学修します。
- 2.2.2 各学科の専門科目を履修することにより、健康医療分野における職業人となるための専門的な知識および技能を修得するとともに、実習科目を履修することにより、より専門的な技能を深めていきます。

3. 学修成果の評価

- 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。
- 3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

<入学受け入れの方針> (アドミッション・ポリシー)

本学部の教育目的に即した人材を育成するために、学部の教育目的を理解し、意欲と主体性をもって勉学に励むことができ、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力、他者とのコミュニケーション能力を備える人を求めます。

1. 知識・技能

- ・入学後の修学に必要な高等学校卒業相当の基礎的な知識・技能を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・事物を多面的かつ論理的に考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・健康や身体に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・実践的な授業に、多様な人々と協働して取り組める。
- ・国際人としての教養を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

第1章 看護学科

教育目的と3つのポリシー

<看護学科の教育目的>

人間を総合的に捉え、尊重し、対象者に適した看護を実践するために必要な知識・技術と豊かな人間性、自律的に学び続ける力を備え、対象者の健康回復・増進を図るために主体的に考え行動できる看護職者の育成を目指す。

<卒業認定・学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

1. 知識・理解

- 1.1 看護職者として必要な専門的知識・技術を他領域の知識と関連づけながら修得し、看護分野における諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

- 2.1 看護職者として、必要な情報およびデータを適切な方法を用いて収集し、活用できる。
- 2.2 対象児・者と信頼関係を築き、適切な看護ケアを安全で効果的に実践できる技術を身につけ、問題を解決するための方策を立て、実践することができる。

3. 思考・判断・表現

- 3.1 看護学分野に関して修得した知識、技能ならびに経験を活かして、自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。
- 3.2 自ら設定した看護学分野の主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、建設的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

- 4.1 人々の生命・生活を尊重し愛情を持って理解しようとする人間性と、倫理観に基づき、知識や技術の研鑽に努め、常に向上心を持って、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
- 4.2 自己研鑽に励むとともに、チームやグループ内で多様な職種に働きかけ、協働し、目標に向かって自律的な職業人として行動できる。

<教育課程編成・実施の方針> (カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程編成

- 1.1 職業人としての基礎力、人間性および倫理観を養い、看護職者としての能力を育成するため、教育課程として「現代リハビリアーツ科目」「専門基礎分野」「専門分野」を配置します。
- 1.2 職業人としての教養、基礎学力・技能、語学力、協調性を修得することを目的に、「現代リハビリアーツ科目」を配置します。
- 1.3 看護職者としてあらゆる健康レベルにある対象児・者にふさわしい看護が実践できる能力を育成するため、専門分野として「看護の基礎」「看護の実践」「看護の発展」を系統的に配置します。

2. 学修方法・学修過程

(学修方法)

- 2.1 4年間の教育課程では、各科目を理論的に学修するだけでなく、実習およびキャリア学修も連動させながら、実践的かつ能動的に学修します。

(学修過程)

- 2.2.1 専門基礎分野科目では健康の回復・維持・増進を一体的に捉えるために必要となる基礎的知識を学修します。

2.2.2 看護の基礎科目では看護実践能力を身に付けるための基盤となる科目を配置し、より専門的な科目の履修につなげる内容とし、人々の成長発達と健康レベルに応じた看護を展開するための基本となる知識・態度を深めていきます。

2.2.3 看護の実践科目では看護実践能力を育成することを目的とし、健康の保持や疾病の予防、疾病・障害の回復過程における看護について系統的に学修します。さらに健康に問題を持つ人々の課題について理解し、生活の質の向上や自立を支援するための知識・技術・態度を深めていきます。

2.2.4 看護の発展科目では、看護活動の内容・方法の多様性を知り、これまでの学修を振り返り看護学を創造的に発展させていきます。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

<入学者受け入れの方針> (アドミッション・ポリシー)

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校で履修する国語、英語、数学、理科などについての基礎的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・人々の健康について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・看護の分野に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・知識の修得と実践のために、多様な人々と協働して取り組める。

1. カリキュラムの構成

授業科目は、現代リハビリアート科目、専門基礎分野、専門分野に分けられます。

現代リハビリアート科目では、社会人としての教養や基本的能力（情報、語学）、大学での学びに必要な基礎能力を学修します。

専門基礎分野とは、看護学の専門教育の基礎となる科目群です。健康の回復・維持・増進を一体的に捉える視点の涵養と、健康医療分野の職業人として必要となる基礎的知識の修得を目的としています。

専門分野における「看護の基礎」は、看護師としての実践能力を身につけるための前提となる知識を修得し、より実践的な科目の履修につなげる内容としています。

専門分野における「看護の実践」は、人間の成長発達と健康レベルに応じた看護についての基礎的な知識・技術・態度について学修するものです。体系化された看護学の基本概念や、人々の健康生活に寄与する看護を科学的な根拠に基づいて実践するために必要な諸理論・技術・態度を学びます。看護の専門領域ごとに知識と技術を修得した後、臨地実習を行い看護実践能力を培うことを目的とする科目群です。

専門分野における「看護の発展」は、看護の統合にあたる科目と、看護の場の違いによる特性を学ぶ科目群です。

2. 卒業に必要な単位数

<表1>

| 【 科目区分 】 | | 必修 | 選択 |
|-------------|----------------|-----|----|
| 現代リハビリアート科目 | 未来展望科目 | — | 3 |
| | 学際コア科目 | 6 | |
| | 初年次科目 | 2 | |
| | アカデミック・リテラシー科目 | 5 | |
| | 語学・異文化理解科目 | 6 | |
| | スポーツ・ライフスキル科目 | — | |
| | フィールド・スタディ科目 | — | |
| 専門基礎分野 | 23 | — | |
| 専門分野 | 看護の基礎 | 34 | — |
| | 看護の実践 | 40 | — |
| | 看護の発展 | 4 | 3 |
| 計 | | 120 | 6 |
| 卒業必要単位数 | | 126 | |

卒業に必要な科目区分として、必ず修得しなければならない「必修科目」、指定された授業科目の中から自分で選択して修得する「選択科目」に分けられます。

卒業必要単位数126単位を修得するために、一定の要件に沿った履修を進めてください。

3. 主な履修計画

看護学科では、各セメスターに多数の必修科目が開講され、臨地実習科目も毎年開講されます。

「看護学科 授業科目一覧」を確認しながら、各セメスターの開講科目を着実に修得していく主体的な履修計画を進めてください。

1) 1年次における履修

主に、大学での学修に必要な基礎能力や、社会人、医療人として求められる基本的能力を身につけます。

> 現代リハビリアート科目

学際コア（心理学入門、生物学入門、生命倫理学など）

アカデミック・リテラシー（日本語リテラシーⅠ、日本語リテラシーⅡ、情報リテラシーⅠ、統計学など）

語学（英語ⅠA、英語ⅠB、英会話A、英会話Bなど）

基礎的学修スキル（初年次ゼミⅠなど）

> 専門基礎分野（健康医療学概論、解剖生理学など）

> 看護の基礎（看護学概論、成長発達など）

> 看護の実践（地域包括ケア実践プロジェクトⅠ、高齢者生活体験実習など）

2) 2年次における履修

主に、看護学に関する基礎能力を身につけます。2年次科目のほとんどは必修科目です。3年次に進級するためには

2年次終了時までには開講されたすべての専門科目の必修科目を修得しておく必要があります。

- 専門基礎分野（疾病病態治療学、疫学、公衆衛生学など）
- 看護の基礎（看護過程、慢性期・高齢者・小児等の看護学援助論など）
- 看護の実践（小児発達支援実習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱなど）

3) 3年次、4年次以降における履修

主に、看護師としての専門知識と実践力を身につけます。

- 看護の基礎（看護研究Ⅰ、緩和ケアなど）
- 看護の実践（看護学援助論演習、各領域別実習など）
- 看護の発展（看護研究Ⅱ、看護マネジメント論など）

4) 4年間の臨地実習科目計画

看護学科では、入学後早期から臨地実習の機会を設け、学内で実際の看護場面を想定しながら学修を進めることができるように実習科目計画を構成しています。

各専門領域実習は3年次秋学期から4年次春学期に配当し、最後の統合実習では、臨地での学びの総括を行います。

〈表2〉

| 学期 | 春学期 | | | | | | | 秋学期 | | | | | | |
|-----------|---------------------|----|----|----------------|--|----------------------|-----|----------------------|--|----|----------------------|----|------|--|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | |
| 学年 | | | | | 夏季休業 | | | | | | 冬季休業 | | 春季休業 | |
| 1年次 | 地域包括ケア 実践プロジェクトⅠ | | | 高齢者生活 体験実習 | | | | | | | | | | |
| 2年次 | | | | | 基礎 看護 学実 習Ⅰ | | | 小児 発達 支援 実習 | | | 基礎 看護 学実 習Ⅱ | | | |
| | | | | | 小児 発達 支援 実習 | | | 基礎 看護 学実 習Ⅰ | | | | | | |
| 3年次 | | | | | クリティカルケア看護学実習 慢性期看護学実習 高齢者看護学実習 精神看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 | | | | クリティカルケア看護学実習 慢性期看護学実習 高齢者看護学実習 精神看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 | | | | | |
| 4年次 | 地域・在宅 看護学実習 | | | 看護 統合 実習 | | | | | | | | | | |
| 保健師 課程 | 産業保健実習・ 学校保健実習 | | | | | 公衆衛生 看護活動 展開実習 | | | | | | | | |

5) 履修上の留意事項

各セメスターに応じた履修計画を進めるために、下記の留意事項を考慮してください。

- (1) 各セメスターで開講される「必修科目」は、原則として履修が優先されます。
したがって、希望する選択科目と必修科目が重なっていた場合は、必修科目を履修することになります。
- (2) 必修科目の単位が修得できなかった場合
 - ①当該科目を翌年度以降に再履修しなければなりません。
 - ②再履修となった必修科目と修得年度の必修科目が重なった場合は、再履修となった必修科目が優先されます。
- (3) セメスターが進行すると時間割上、卒業要件に必要な下記の履修が難しくなります。
1年次に修得しておいてください。
 - ・『現代リベラルアーツ科目の学際コア科目』である必修6単位
 - ・『現代リベラルアーツ科目の初年次科目』である必修2単位
 - ・『現代リベラルアーツ科目のアカデミック・リテラシー科目』である必修5単位

- ・『現代リハビリアーツ科目の英語科目』である必修6単位
- (4) 2年次秋学期終了までに、下記の科目を修得してください。
 - ・『専門基礎分野』である必修23単位
- (5) 臨地実習における先修科目
先修科目とは後続の授業科目のために予め履修し、単位を修得または修得見込となっていることが必要な科目です。先修科目の単位修得（修得見込）ができない場合、別に定める実習科目を履修することができます。
- (6) 出席要件が厳しい科目
地域包括ケア実践プロジェクトⅡ・Ⅲとすべての実習科目については、理由の如何に関わらず臨地における実習時間の5分の4以上の出席が必要です。
- (7) 履修登録制限（CAP制）
各セメスターにおいて、履修登録できる単位数の上限は24単位です。

4. 進級要件

2年次から3年次への進級および3年次から4年次への進級をするためには、次の進級要件をすべて満たすことが必要です。なお、進級判定は各々、2年次終了時点および3年次終了時点に行います。

| | 2年次終了時 | 3年次終了時 |
|-----------------------|----------------------|----------------------|
| 単位修得が必要な「現代リハビリアーツ科目」 | — | 22単位以上（卒業要件） |
| 単位修得が必要な専門科目 | 2年次終了時までに関講した必修科目すべて | 3年次終了時までに関講した必修科目すべて |

(※成績表の「認定単位数」枠内の単位)

5. 試験の受験資格

次の要件をすべて満たしていないと受験資格はありません。

- ① その科目が正しく履修登録されていること。
- ② 定められた学費を納入していること。
- ③ 担当教員の求める諸条件を満たしていること。
- ④ その科目の出席回数が原則として授業実施回数の3分の2以上であること。
(科目によっては、より厳しい条件が課せられる場合があります。シラバスや授業中の説明をしっかりと確認してください。)

6. 担任およびチューター制度

看護学科では1学年を2クラスに分け、それぞれに2名の専任教員が担任・副担任として指導を行います。担任・副担任以外にも、学生を少人数体制で担当するチューターが、みなさんのさまざまな相談に応じ、修学・生活上の問題解決のための助言を行います。

また教員は、オフィス・アワーとして毎週数時間の相談時間を設けています。この他にも研究室に在室している時間は、相談を受け付けます。

7. 保健師課程の履修について

1) 保健師とは

保健師は、地域に住む、あらゆる発達段階、あらゆる健康段階にある、すべての人々が、健康で豊かな生活を送ることができるように、地域の実態に応じて、住民や関係機関と協働して問題の解決を図り、安心して暮らせる地域づくりを目指しています。都道府県・市町村の保健所・保健センターのほか企業等において仕事を行っています。保健師を目指す学生は、4セメスター（2年次秋学期）に選抜を受け、合格すると保健師課程を履修できます。

2) 保健師課程の出願時に必要な履修科目

本学の保健師課程の出願要件として、2年次4セメスターまでの所定の科目（看護学科 授業科目一覧 保健師課程必修 ○印）を修得している必要があります。

単位修得状況によっては、保健師課程への出願が難しくなりますので、計画的に履修してください。

3) 保健師課程の定員および選抜について

保健師課程の定員は20名です。2年次1月に、保健師課程の履修希望者を募集します。選抜を希望する場合は、保健師課程選抜試験願書を指定された期日までに教務センターに提出してください。2年次2月頃に選抜を行います。

(1) 選抜方法

選抜は、以下の基準によって行います。

- ① 応募用紙に、保健師課程を履修する動機が明確に記載されていること。
- ② 保健師課程に必要な4セメスター（2年次秋学期）までの単位（看護学科 授業科目一覧 保健師課程必修 ○印）を修得していること。
- ③ 2年次の4セメスターまでのGPAが学年の上位3分の1以上であること。
- ④ 面接評価が3.5以上であること。

面接は、以下の視点で行います。

- i) 人々の健康と生活に関心が強く、保健の分野で地域に貢献する意思を持っている。
- ii) 卒業後に保健師として活躍しようという明確な意思を持っている。
- iii) 保健師課程の学修を展開するために必要な学力を持ち、主体的な学修ができる。
- iv) 将来、チームの一員として住民・他職種と協働活動できる資質（主体性、協調性、誠実性）を備えている。

以上の保健師課程のアドミッション・ポリシーを踏まえて保健師になるという目的意識と、それを達成するための行動目標を持ち、堅実性や積極的な姿勢を備えていること。

(2) 選抜結果

保健師課程の選抜結果は、3年次開始前に通知します。

(3) 教員との相談

オフィス・アワー等を活用し、公衆衛生看護学教員や担任と進路に関する相談の機会を持ち、十分検討して自己選択できるようにしてください。

4) 保健師課程の実習について

(1) 公衆衛生看護活動展開実習

実習は、4年次の7セメスターに、京都府内にある保健所および市町村の保健センターで3週間行います。

(2) 産業保健・学校保健実習

実習は、4年次の7セメスターに、京都府内にある企業および小・中学校で2週間行います。

8. 資格

1) 看護師国家試験受験資格

本学科の所定の科目（表1）を修得し、卒業した者および卒業見込者に対し、厚生労働省が実施する看護師の国家試験受験資格が与えられます。

2) 保健師国家試験受験資格

看護師課程の科目126単位を含め、保健師国家試験受験資格に必要な科目（看護学科 授業科目一覧 保健師課程必修 ○印）を修得し、卒業した者および卒業見込者に対し、厚生労働省が実施する保健師の国家試験受験資格が与えられます。

3) 養護教諭二種

保健師資格取得者で、在学中に所定の科目を修得した者は、養護教諭二種免許状の授与申請を行うことが可能です。本学では、保健師国家試験受験資格に必要な科目に加え、「日本国憲法（2単位）」「健康スポーツ理論（2単位）」「SLS I（1単位）」「情報リテラシーⅡ（1単位）」の修得が必要です。

4) 第一種衛生管理者

保健師資格取得者は、第一種衛生管理者免許の授与申請を行うことが可能です。

看護学科 授業科目一覧

| 科 区 | 目 分 | 科目ナンバ ー | 授 業 科 目 | 単位数 | | 保健師 課程 必修 | 授業 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業要件 単位数 |
|--|------------------|-----------------|-----------------|-----|----|-----------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|
| | | | | 必修 | 選択 | | | 1 セメ | 2 セメ | 3 セメ | 4 セメ | 5 セメ | 6 セメ | 7 セメ | 8 セメ | |
| 未来 展望 科目 | | DF114201 | コミュニティの再生 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DF114202 | 生命の歩みと未来 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DF114203 | 多様性の尊重 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DF114204 | 科学技術の革新 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DF114205 | クオリティ・オブ・ライフの探究 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DF114206 | 環境と開発 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| 現代リハラルアーツ科目 | 人間と 発達 | DC111201 | 文学 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DC111202 | 哲学 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DC111203 | 心理学入門 | 2 | | ○ | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| | | DC111204 | 現代史 | | 2 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| | | DC111205 | 健康とライフステージ | | 2 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| | | DC111206 | 健康スポーツ理論 | | 2 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 人間と 社会 | DC111207 | 経済学入門 | | 2 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| | | DC111208 | 経営学入門 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DC111209 | 法学 | | 2 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | DC111210 | 人権の歴史と現代 | | 2 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | DC111211 | 日本国憲法 | | 2 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | DC111212 | 地政学 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DC111213 | 文化社会学 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | 人間と 自然 | DC111214 | 生物学入門 | 2 | | ○ | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| | | DC111215 | 微生物の世界 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DC111216 | 京の食材 | | 2 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| | | DC111217 | 科学技術史 | | 2 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | DC111218 | 分子遺伝学 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DC111219 | 数理統計学 | | 2 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| | 人間の 複眼的 理解 | DC111220 | 生命倫理学 | 2 | | ○ | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| DC111221 | | ビジネス・データサイエンス入門 | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| DC111222 | | メディア・リテラシー | | 2 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | | |
| DC111223 | | リハラルアーツ特別講義A | | 2 | | 30 | ○ | | ○ | | | | | | | |
| DC111224 | | リハラルアーツ特別講義B | | 2 | | 30 | | ○ | | ○ | | | | | | |
| | DC111225 | リハラルアーツ特別講義C | | 2 | | 30 | ○ | | ○ | | | | | | | |
| | DC111226 | リハラルアーツ特別講義D | | 2 | | 30 | ○ | | ○ | | | | | | | |
| 初年次 科目 | | DU134201 | 初年次ゼミⅠ | 2 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | | | 2単位 必修 |
| | | DU134202 | 初年次ゼミⅡ | | 2 | | 30 | | ○ | | | | | | | |
| アカ デミ ック ・リ テラ シー 科目 | | DA134101 | 日本語リテラシーⅠ | | 1 | | ○ | 15 | ○ | | | | | | | 必修5 単位 |
| | | DA134102 | 日本語リテラシーⅡ | | 1 | | ○ | 15 | ○ | | | | | | | |
| | | DA132103 | 情報リテラシーⅠ | | 1 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | | |
| | | DA132104 | 情報リテラシーⅡ | | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | | |
| | | DA232105 | 数的処理基礎 | | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | | DA232206 | AI・データサイエンス基礎 | | 2 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | | DA234207 | アカデミック・ライティングⅠ | | 2 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | | DA235208 | アカデミック・ライティングⅡ | | 2 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | | DA232209 | 統計学 | | 2 | | ○ | 30 | | ○ | | | | | | |
| | | DA232210 | 保健医療情報学 | | 2 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | |

看護学科

必修19単位を含む22単位以上 ※次頁へ続く

| 科 区 目 分 | 科目ナンバ- | 授 業 科 目 | 単位数 | | 保健師 課程 必修 | 授業 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業要件 単位数 |
|------------------|---------------|-------------|-------------|----|-----------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------------|
| | | | 必修 | 選択 | | | 1 セメ | 2 セメ | 3 セメ | 4 セメ | 5 セメ | 6 セメ | 7 セメ | 8 セメ | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現代リベラルアーツ科目 | 英語科目 | DE131201 | 英語ⅠA | 2 | | ○ | 60 | ○ | | | | | | | 必修6単位 |
| | | DE131202 | 英語ⅠB | 2 | | ○ | 60 | | ○ | | | | | | |
| | | DE231203 | 英語ⅡA | | 2 | | 60 | | | ○ | | | | | |
| | | DE231204 | 英語ⅡB | | 2 | | 60 | | | | ○ | | | | |
| | | DE331105 | 英語ⅢA | | 1 | | 30 | | | | | ○ | | | |
| | | DE331106 | 英語ⅢB | | 1 | | 30 | | | | | | ○ | | |
| | | DE133107 | 英会話A | | 1 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | |
| | | DE233108 | 英会話B | | 1 | | ○ | 30 | | ○ | | | | | |
| | | DE233109 | 英会話C | | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | |
| | | DE333110 | 英会話D | | 1 | | 30 | | | | | ○ | | | |
| | | DE333111 | 英会話E | | 1 | | 30 | | | | | | ○ | | |
| | | DE333112 | 上級英語Ⅰ | | 1 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | DE333113 | 上級英語Ⅱ | | 1 | | 30 | | ○ | ○ | | ○ | | | | |
| | 第二外国語科目 | DL133101 | ベーシック中国語Ⅰ | | 1 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 必修19単位を含む22単位以上 |
| | | DL133102 | ベーシック中国語Ⅱ | | 1 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DL133103 | ベーシック韓国語Ⅰ | | 1 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DL133104 | ベーシック韓国語Ⅱ | | 1 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DL133105 | ベーシックドイツ語Ⅰ | | 1 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DL133106 | ベーシックドイツ語Ⅱ | | 1 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | DL133107 | ベーシックフランス語Ⅰ | | 1 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DL133108 | ベーシックフランス語Ⅱ | | 1 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | DL133109 | ベーシックスペイン語Ⅰ | | 1 | | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DL133110 | ベーシックスペイン語Ⅱ | | 1 | | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | 海外研修 | DK156201 | 海外研修ⅠA | | 2 | | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DK156202 | 海外研修ⅠB | | 2 | | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DK156203 | 海外研修ⅠC | | 2 | | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DK156404 | 海外研修Ⅱ | | 4 | | 180 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | スポーツ・ライフスキル科目 | DS156101 | SLSⅠ | | 1 | | 30 | ○ | | | | | | | |
| | | DS156102 | SLSⅡ | | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | | DS257103 | SLSⅢ | | 1 | | 30 | | | ○ | | | | | |
| DS257104 | | SLSⅣ | | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| フィールド・スタディ科目 | DD157201 | フィールド・スタディA | | 2 | | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | DD157202 | フィールド・スタディB | | 2 | | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | DD157203 | フィールド・スタディC | | 2 | | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |

| 科 区 | 目 分 | 科目ナンバ | 授 業 科 目 | 単 位 数 | | 保健師 課程 必修 | 授業 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業要件 単位数 | |
|----------------------------|----------|-----------|-------------------|-------|----|-----------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--|------------------------|--|
| | | | | 必修 | 選択 | | | 1 セメ | 2 セメ | 3 セメ | 4 セメ | 5 セメ | 6 セメ | 7 セメ | 8 セメ | | |
| 専 門 基 礎 分 野 | | NS111101 | 健康医療学概論 | 1 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | | | 必 修 23 単 位 | |
| | | NS111202 | 解剖生理学 | 2 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | | | | |
| | | NS131203 | 解剖生理学演習 | 2 | | ○ | 60 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NS111204 | 生化学 | 2 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | | | | |
| | | NS211105 | 病理学 | 1 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | NS111106 | 微生物学 | 1 | | ○ | 15 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NS211207 | 薬理学 | 2 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | NS111108 | 栄養学 | 1 | | ○ | 15 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NS211109 | 疾病病態治療学Ⅰ（外科） | 1 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | NS211110 | 疾病病態治療学Ⅱ（内科A） | 1 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | NS211111 | 疾病病態治療学Ⅲ（内科B） | 1 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | NS211112 | 疾病病態治療学Ⅳ（小児・母性） | 1 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NS211113 | 疾病病態治療学Ⅴ（精神・老年） | 1 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NS211214 | 社会保障論 | 2 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | NS211215 | 公衆衛生学 | 2 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | NS211216 | 疫学 | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | | |
| 専 門 分 野 | 看護の基礎 | NM111201 | 看護学概論 | 2 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | | 必 修 34 単 位 | | |
| | | NM111102 | 看護倫理Ⅰ | 1 | | ○ | 15 | ○ | | | | | | | | | |
| | | NM111103 | 成長発達Ⅰ（小児の健康と看護） | 1 | | ○ | 15 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NM111104 | 成長発達Ⅱ（成人の健康と看護） | 1 | | ○ | 15 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NM111105 | 成長発達Ⅲ（高齢者の健康と看護） | 1 | | ○ | 15 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NM111106 | 成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護） | 1 | | ○ | 15 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NM111107 | 成長発達Ⅴ（心の健康と看護） | 1 | | ○ | 15 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NM111208 | 公衆衛生看護学概論 | 2 | | ○ | 30 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NM212109 | 家族看護 | 1 | | ○ | 15 | | | ○ | | | | | | | |
| | | NM212110 | 症状メカニズム | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NM214211 | 看護過程 | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NM212212 | 慢性期看護学援助論 | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NM212213 | クリティカルケア看護学援助論 | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NM212214 | 高齢者看護学援助論 | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NM212215 | 精神看護学援助論 | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NM212216 | 小児看護学援助論 | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NM212217 | 母性看護学援助論 | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NM111218 | 地域・在宅看護概論 | 2 | | ○ | 30 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NM212219 | 地域・在宅看護援助論 | 2 | | ○ | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | NM211120 | がん看護 | 1 | | ○ | 15 | | | | ○ | | | | | | |
| NM311121 | 緩和ケア | 1 | | ○ | 15 | | | | | ○ | | | | | | | |
| NM315122 | 看護研究Ⅰ | 1 | | ○ | 15 | | | | | | ○ | | | | | | |
| 看護の実践 | | NM132123 | 看護基本技術論 | 1 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | | 必 修 40 単 位 ※ 次 頁 へ 続 く | | |
| | | NM132224 | 看護生活技術論 | 2 | | ○ | 60 | | ○ | | | | | | | | |
| | | NM233125 | ヘルスアセスメント | 1 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | NM142126 | 高齢者生活体験実習 | 1 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | | | | |
| | | NM243127 | 小児発達支援実習 | 1 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | NM233228 | 看護治療支援技術論 | 2 | | ○ | 60 | | | | ○ | | | | | | | |

| 科 目 区 分 | 科目ナンバ | 授業科目 | 単位数 | | 保健師 課程 必修 | 授業 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業要件 単位数 | | |
|------------------|--------------|------------------|-----------|----|-----------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------------|---|---------------------------------------|
| | | | 必修 | 選択 | | | 1 セメ | 2 セメ | 3 セメ | 4 セメ | 5 セメ | 6 セメ | 7 セメ | 8 セメ | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 看護の 実践 | NM243129 | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | | ○ | 30 | | | ○ | | | | | | 必修 40 単位 | | |
| | NM243230 | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | | ○ | 60 | | | ○ | | | | | | | | |
| | NM333131 | 慢性期看護学援助論演習 | 1 | | ○ | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| | NM343332 | 慢性期看護学実習 | 3 | | ○ | 90 | | | | | | ○ | | | | | |
| | NM333133 | クリティカルケア看護学援助論演習 | 1 | | ○ | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| | NM343334 | クリティカルケア看護学実習 | 3 | | ○ | 90 | | | | | | ○ | | | | | |
| | NM333135 | 高齢者看護学援助論演習 | 1 | | ○ | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| | NM343236 | 高齢者看護学実習 | 2 | | ○ | 60 | | | | | | ○ | | | | | |
| | NM333137 | 精神看護学援助論演習 | 1 | | ○ | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| | NM343238 | 精神看護学実習 | 2 | | ○ | 60 | | | | | | ○ | | | | | |
| | NM333139 | 小児看護学援助論演習 | 1 | | ○ | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| | NM343140 | 小児看護学実習 | 1 | | ○ | 30 | | | | | | ○ | | | | | |
| | NM333141 | 障がい児看護演習 | 1 | | ○ | 30 | | | | | | ○ | | | | | |
| | NM333142 | 母性看護学援助論演習 | 1 | | ○ | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| | NM343243 | 母性看護学実習 | 2 | | ○ | 60 | | | | | | ○ | | | | | |
| | NM333144 | 地域・在宅看護援助論演習Ⅰ | 1 | | ○ | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| | NM333145 | 地域・在宅看護援助論演習Ⅱ | 1 | | ○ | 30 | | | | | | ○ | | | | | |
| | NM443246 | 地域・在宅看護学実習 | 2 | | ○ | 60 | | | | | | | ○ | | | | |
| | NM447247 | 看護統合実習 | 2 | | ○ | 60 | | | | | | | ○ | | | | |
| | NM145148 | 地域包括ケア実践プロジェクトⅠ | 1 | | ○ | 30 | ○ | | | | | | | | | | |
| | NM333149 | 地域包括ケア実践プロジェクトⅡ | 1 | | ○ | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| | NM435150 | 地域包括ケア実践プロジェクトⅢ | 1 | | ○ | 30 | | | | | | | ○ | | | | |
| | 看護の 発展 | NM415151 | 看護研究Ⅱ | 1 | | ○ | 15 | | | | | | | ○ | | | 必修 4 単位を 含む 7 単位 以上 |
| | | NM437152 | 看護研究Ⅲ | 1 | | | 30 | | | | | | | | | ○ | |
| | | NM315153 | 看護マネジメント論 | 1 | | ○ | 15 | | | | | ○ | | | | | |
| | | NM415154 | 看護倫理Ⅱ | 1 | | | 15 | | | | | | | | | ○ | |
| NM415155 | | 国際看護論 | 1 | | | 15 | | | | | | | | ○ | | | |
| NM411156 | | 看護教育論 | 1 | | | 15 | | | | | | | | ○ | | | |
| NM411157 | | 災害看護論 | 1 | | | 15 | | | | | | | | ○ | | | |
| NM411158 | | 先端医療論 | 1 | | | 15 | | | | | | | | ○ | | | |
| NM411159 | | 医療機器論 | 1 | | | 15 | | | | | | | | ○ | | | |
| NM416260 | | キャリアサポート実践講座 | 2 | | ○ | 30 | | | | | | | | ○ | | | |
| NM211162 | | 産業保健 | 1 | ○ | | 15 | | | ○ | | ○ | | | | | | |
| NM211261 | | 学校保健 | 2 | ○ | | 30 | | | ○ | | ○ | | | | | | |
| NM212263 | | 公衆衛生看護活動論 | 2 | ○ | | 30 | | | | ○ | | | | | | | |
| NM211264 | | 保健医療福祉行政論 | 2 | ○ | | 30 | | | | ○ | | | | | | | |
| NM233265 | | 公衆衛生看護活動展開論 | 2 | ○ | | 60 | | | | | ○ | | | | | | |
| NM333166 | | 公衆衛生看護技術論 | 1 | ○ | | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| NM435267 | | 公衆衛生看護活動実践演習 | 2 | ○ | | 60 | | | | | | ○ | | | | | |
| NM413168 | | 公衆衛生看護管理論 | 1 | ○ | | 15 | | | | | | | | ○ | | | |
| NM447269 | 産業保健・学校保健実習 | 2 | ○ | | 60 | | | | | | | ○ | | | | | |
| NM447370 | 公衆衛生看護活動展開実習 | 3 | ○ | | 90 | | | | | | | ○ | | | | | |

単位数・授業時間数の考え方は p.8 を参照

第2章 言語聴覚学科

教育目的と3つのポリシー

<言語聴覚学科の教育目的>

言語、聴覚や摂食嚥下分野の基本的な評価と訓練・指導の技術を修得し、さらに基盤となる分野（科学）と幅広い分野（教養）の知識を備え、対象者の状態を理解し、リハビリテーションに関する問題を医師等多職種と連携しながら主体的に解決できる言語聴覚士の育成を目指す。

<卒業認定・学位授与の方針>（ディプロマ・ポリシー）

1. 知識・理解

- 1.1 言語聴覚療法に必要な専門的知識・技能を他領域の知識と関連づけながら修得し、言語聴覚障害分野における諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

- 2.1 言語聴覚士として、必要な情報およびデータを適切な方法を用いて収集し、活用できる。
- 2.2 対象児・者と信頼関係を築き、言語聴覚士として安全で効果的なリハビリテーションを実践できる技術を身につけ、問題を解決するための方策を立て、実践することができる。

3. 思考・判断・表現

- 3.1 言語聴覚障害学分野に関して修得した知識、技能ならびに経験を活かして、自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。
- 3.2 自ら設定した言語聴覚障害学分野の主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、建設的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

- 4.1 医療の高度化や変化に対応し、言語聴覚士として生涯にわたり、知識や技能の研鑽に努め、常に向上心を持って、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
- 4.2 豊かな人間性とコミュニケーション能力を持ち、リハビリテーション領域におけるチーム医療を推進しながら、自律的な職業人として行動できる。

<教育課程編成・実施の方針>（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程編成

- 1.1 職業人としての基礎力、人間性および倫理観を養い、言語聴覚士としての能力を育成するため、教育課程として「現代リベラルアーツ科目」「専門基礎分野」「専門分野」を配置します。
- 1.2 職業人としての教養、基礎学力・技能、語学力、協調性を修得することを目的に、「現代リベラルアーツ科目」を配置します。
- 1.3 言語聴覚士として乳幼児から高齢者まで対象児・者にふさわしい言語聴覚療法が実施できる能力を育成するため、実学を重視した「専門基礎分野」「専門分野」を系統的に配置します。

2. 学修方法・学修過程

（学修方法）

- 2.1 4年間の教育課程では、各科目を理論的に学修するだけでなく、実習およびキャリア学修も連動させながら、実践的かつ能動的に学修します。

（学修過程）

- 2.2.1 基礎分野科目では健康医療分野の職業人として必要な幅広い教養を学修します。
- 2.2.2 専門基礎分野科目では言語聴覚障害学の基礎となる科目を配置し、より専門的な科目に繋がる内容を深めていきます。

2.2.3 専門分野科目では言語聴覚士としての知識・技能・態度について障害領域別に学修し、対象児・者の問題を理解し、治療や訓練において、自ら問題を発見し、解決する能力を深めていきます。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

<入学者受け入れの方針> (アドミッション・ポリシー)

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題や活動に積極的に取り組む意欲や姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校で履修する国語、英語、数学、生物などについての基礎的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・人の身体・精神・行動の仕組みについて考え判断するための基礎的な能力がある。
- ・自分の考えを的確にことばで表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・リハビリテーションの分野、特に言語聴覚士に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・様々な人の心情を理解して信頼関係を築こうとする気持ちを持ち、知識の修得と実践のために、多様な人々と協働して取り組める。

1. カリキュラムの構成

授業科目は、現代リハビリアート科目、専門基礎分野、専門分野に分けられます。

現代リハビリアート科目では、社会人としての教養や基本的能力（情報、語学）、大学での学びに必要な基礎能力を学修します。

専門基礎分野は、言語聴覚士の臨床スキルを学ぶ上での基礎となる科目群で、医学や音声言語に関する基礎知識を学修します。

専門分野では、音声、言語、聴覚、摂食嚥下などの各専門分野について、障害の評価、機能回復訓練や支援の実際を学修します。

2. 卒業に必要な単位数（卒業要件）

| 【 科 目 区 分 】 | | 必修 | 選択 |
|-------------|--|-----|----|
| 現代リハビリアート科目 | 未来展望科目 | — | 8 |
| | 学際コア科目 | 4 | |
| | 初年次科目 | 2 | |
| | アカデミック・リテラシー科目 | 9 | |
| | 語学・異文化理解科目 | 6 | |
| | スポーツ・ライフスキル科目 | — | |
| | フィールド・スタディ科目 | — | |
| 専門基礎分野 | 人体のしくみ・疾病と治療 心の働き 言語とコミュニケーション 社会保障・教育とリハビリテーション | 38 | — |
| 専門分野 | 地域言語聴覚療法学 言語聴覚障害学総論 失語・高次脳機能障害学 言語発達障害学 発声発語・摂食嚥下障害学 聴覚障害学 言語聴覚療法管理学 臨床実習 | 59 | — |
| 計 | | 118 | 8 |
| 卒業必要単位数 | | 126 | |

卒業に必要な科目区分として、必ず修得しなければならない「必修科目」、指定された授業科目の中から自分で選択して修得する「選択科目」に分けられます。

卒業必要単位数126単位を修得するために、一定の要件に沿った履修を進めてください。

3. 主な履修計画

言語聴覚学科では、各セメスターに多数の必修科目が開講され、実習科目も2年次より開講されます。

「言語聴覚学科 授業科目一覧」を確認しながら、各セメスターの開講科目を着実に修得していく主体的な履修計画を進めてください。

1) 1年次における履修

主に、大学での学修に必要な基礎能力や、社会人、医療人として求められる基本的能力を身につけます。

- 現代リハビリアート科目
 - 学際コア（心理学入門、生命倫理学など）
 - アカデミック・リテラシー（日本語リテラシーⅠ、日本語リテラシーⅡ、情報リテラシーⅠ、統計学など）
 - 語学（英語ⅠA、英語ⅠB、英会話A、英会話Bなど）
 - 基礎的学修スキル（初年次ゼミⅠなど）
- 専門基礎分野（健康医療学概論、地域連携実践プロジェクトなど）
- 専門分野（言語聴覚障害学概論Ⅰ、言語聴覚障害学概論Ⅱ）

2) 2年次における履修

主に、言語聴覚障害学に関する基礎能力を身につけます。2年次科目のほとんどは必修科目です。3年次に進級するためには開講されたすべての必修科目を修得しておく必要があります。

- 専門基礎分野（病理学、耳鼻咽喉科学など）
- 専門分野（失語・高次脳機能障害学Ⅰ、言語発達障害学Ⅰなど）

3) 3年次、4年次以降における履修

主に、言語聴覚士としての専門知識と実践力を身につけます。

- 専門基礎分野（内科学、精神医学など）
- 専門分野（言語聴覚障害学研究法、卒業研究Ⅰなど）

4) 臨床実習科目計画

言語聴覚学科では、2年次より段階的に臨床実習の機会を設け、学内で実際の場面を想定しながら学修を進めることができるような実習科目計画を構成しています。

5) 履修上の留意事項

各セメスターに応じた履修計画を進めるために、下記の留意事項を考慮してください。

- (1) 各セメスターで開講される「必修科目」は、原則として履修が優先されます。
従って、希望する選択科目と必修科目が重なっていた場合は、必修科目を履修することになります。
- (2) 必修科目の単位が修得できなかった場合
 - ①当該科目を翌年度以降に再履修しなければなりません。
 - ②再履修となった必修科目と修得年度の必修科目が重なった場合は、再履修となった必修科目が優先されます。
- (3) セメスターが進行すると時間割上、卒業要件に必要な下記の履修が難しくなります。
1年次に修得しておいてください。
 - ・『現代リベラルアーツ科目の学際コア科目』である必修4単位
 - ・『現代リベラルアーツ科目の初年次科目』である必修2単位
 - ・『現代リベラルアーツ科目のアカデミック・リテラシー科目』である必修9単位
 - ・『現代リベラルアーツ科目の英語科目』である必修6単位

(4) 科目履修要件

言語聴覚学科では、以下の科目履修要件が設けられています。

| |
|---|
| <p>「構音障害学Ⅱ」「構音障害学Ⅲ」を履修する者は「構音障害学Ⅰ」を修得していること。</p> <p>「失語・高次脳機能障害学Ⅱ」を履修する者は「失語・高次脳機能障害学Ⅰ」を修得していること。</p> <p>「失語・高次脳機能障害学Ⅲ」を履修する者は「失語・高次脳機能障害学Ⅱ」を修得していること。</p> <p>「言語発達障害学Ⅰ」を履修する者は「言語発達学」を修得していること。</p> <p>「言語発達障害学Ⅱ」を履修する者は「言語発達障害学Ⅰ」を修得していること。</p> <p>「言語発達障害学Ⅲ」を履修する者は「言語発達障害学Ⅱ」を修得していること。</p> <p>「臨床実習Ⅰ」を履修する者は「臨床実習演習Ⅰ」及び「アカデミック・ライティングⅠ」を修得見込みであること。</p> <p>「臨床実習Ⅱ」を履修する者は「臨床実習Ⅰ」を修得していること。</p> <p>「臨床実習Ⅱ」を履修する者は「臨床実習演習Ⅱ」及び「アカデミック・ライティングⅡ」を修得見込みであること。</p> <p>「臨床実習Ⅲ」を履修する者は「臨床実習Ⅱ」を修得していること。</p> <p>「臨床実習Ⅲ」を履修する者は「臨床実習演習Ⅲ」を修得見込みであること。</p> <p>「臨床実習Ⅱ」を履修する者は5セメスター（3年次春学期）に開講した「専門基礎分野」「専門分野」の必修科目をすべて修得していること。</p> <p>「言語聴覚障害学総合演習Ⅱ」を履修する者は7セメスター（4年次春学期）に開講した「専門基礎分野」「専門分野」の必修科目をすべて修得していること。</p> <p>「言語聴覚障害学総合演習Ⅱ」を履修する者は「言語聴覚障害学総合演習Ⅰ」を修得していること。</p> <p>「言語聴覚障害学総合演習Ⅲ」を履修する者は「言語聴覚障害学総合演習Ⅱ」を修得していること。</p> <p>「卒業研究Ⅱ」を履修する者は「卒業研究Ⅰ」を修得していること。</p> |
|---|

- (5) 出席要件が厳しい科目
実習科目については、理由の如何に関わらず5分の4以上の出席が必要です。
- (6) 履修登録制限（CAP制）
各セメスターにおいて、履修登録できる単位数の上限は24単位です。

4. 進級要件

2年次から3年次への進級および3年次から4年次への進級をするためには、次の進級要件をすべて満たすことが必要です。なお、進級判定は各々、2年次終了時点および3年次終了時点に行います。

| | 2年次終了時 | 3年次終了時 |
|---------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」 | — | 29単位以上（卒業要件） |
| 単位修得が必要な専門科目 | 2年次終了時までに関講した必修科目 すべて | 3年次終了時までに関講した必修科目 すべて |

（※成績表の「認定単位数」枠内の単位）

5. 試験の受験資格

次の要件をすべて満たしていないと受験資格はありません。

- ① その科目が正しく履修登録されていること。
- ② 定められた学費を納入していること。
- ③ 担当教員の求める諸条件を満たしていること。
- ④ その科目の出席回数が原則として授業実施回数の3分の2以上であること。

（科目によっては、より厳しい条件が課せられる場合があります。シラバスや授業中の説明を
しっかり確認してください。）

6. 言語聴覚士国家試験受験資格

言語聴覚士の国家試験受験資格を得るには、本学の卒業に必要となる知識と技能を修得し、かつ所定の科目に合格している必要があります。また国家資格を取得するには、国家試験に合格し、厚生労働大臣に免許を申請しなければなりません。言語聴覚士の国家試験は毎年1回、2月中旬～下旬に行われます。

言語聴覚学科 授業科目一覽

| 科 区 目 分 | 科目ナンバ－ | 授 業 科 目 | 単位数 | | 授業 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業要件 単位数 |
|---|----------|-----------------|-----------------|----|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|
| | | | 必修 | 選択 | | 1 セメ | 2 セメ | 3 セメ | 4 セメ | 5 セメ | 6 セメ | 7 セメ | 8 セメ | |
| 未来 展 望 科 目 | DF114201 | コミュニティの再生 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | DF114202 | 生命の歩みと未来 | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | | |
| | DF114203 | 多様性の尊重 | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | | |
| | DF114204 | 科学技術の革新 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | DF114205 | クオリティ・オブ・ライフの探究 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | DF114206 | 環境と開発 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| 現代リベラルアーツ科目 | 人間と発達 | DC111201 | 文学 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111202 | 哲学 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111203 | 心理学入門 | 2 | | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111204 | 現代史 | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111205 | 健康とライフステージ | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111206 | 健康スポーツ理論 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 人間と社会 | DC111207 | 経済学入門 | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111208 | 経営学入門 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111209 | 法学 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DC111210 | 人権の歴史と現代 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DC111211 | 日本国憲法 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DC111212 | 地政学 | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | 人間と自然 | DC111213 | 文化社会学 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111214 | 生物学入門 | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111215 | 微生物の世界 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111216 | 京の食材 | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111217 | 科学技術史 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DC111218 | 分子遺伝学 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | 人間の複眼的理解 | DC111219 | 数理統計学 | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111220 | 生命倫理学 | 2 | | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DC111221 | ビジネス・データサイエンス入門 | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111222 | メディア・リテラシー | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111223 | リベラルアーツ特別講義A | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111224 | リベラルアーツ特別講義B | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111225 | リベラルアーツ特別講義C | | 2 | 30 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | DC111226 | リベラルアーツ特別講義D | | 2 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 初年次 科目 | DUI34201 | 初年次ゼミⅠ | 2 | | 30 | ○ | | | | | | | 2単位 必修 | |
| | DUI34202 | 初年次ゼミⅡ | | 2 | 30 | | ○ | | | | | | | |
| アカ デ ミ ク ・ リ テ ラ シー 科 目 | DA134101 | 日本語リテラシーⅠ | 1 | | 15 | ○ | | | | | | | | |
| | DA134102 | 日本語リテラシーⅡ | 1 | | 15 | ○ | | | | | | | | |
| | DA132103 | 情報リテラシーⅠ | 1 | | 30 | ○ | | | | | | | | |
| | DA132104 | 情報リテラシーⅡ | | 1 | 30 | | ○ | | | | | | | |
| | DA232105 | 数的処理基礎 | 1 | | 30 | | | | | | | | | |
| | DA232206 | AI・データサイエンス基礎 | 2 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | DA234207 | アカデミック・ライティングⅠ | 2 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | DA235208 | アカデミック・ライティングⅡ | 2 | | 30 | | | | | | ○ | | | |
| | DA232209 | 統計学 | 2 | | 30 | | | | ○ | | | | | |
| | DA232210 | 保健医療情報学 | | 2 | 30 | | | | ○ | | | | | |

必修4単位

必修21単位をきむ29単位以上 ※次頁へ続く

2単位

必修9単位

| 科 区 目 分 | 科目ナンバ－ | 授 業 科 目 | 単位数 | | 授業 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業要件 単位数 |
|------------------|---------------|-------------|-------------|----|-----------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----------------|
| | | | 必修 | 選択 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | |
| | | | | | | セメ | セメ | セメ | セメ | セメ | セメ | セメ | セメ | |
| 現代リベラルアーツ科目 | 英語科目 | DE131201 | 英語ⅠA | 2 | | 60 | ○ | | | | | | | 必修6単位 |
| | | DE131202 | 英語ⅠB | 2 | | 60 | | ○ | | | | | | |
| | | DE231203 | 英語ⅡA | | 2 | 60 | | | ○ | | | | | |
| | | DE231204 | 英語ⅡB | | 2 | 60 | | | | ○ | | | | |
| | | DE331105 | 英語ⅢA | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | |
| | | DE331106 | 英語ⅢB | | 1 | 30 | | | | | | ○ | | |
| | | DE133107 | 英会話A | 1 | | 30 | ○ | | | | | | | |
| | | DE233108 | 英会話B | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | |
| | | DE233109 | 英会話C | | 1 | 30 | | | ○ | | | | | |
| | | DE333110 | 英会話D | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | |
| | | DE333111 | 英会話E | | 1 | 30 | | | | | ○ | | | |
| | | DE333112 | 上級英語Ⅰ | | 1 | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DE333113 | 上級英語Ⅱ | | 1 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | 第二外国語科目 | DL133101 | ベーシック中国語Ⅰ | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 必修21単位を含む29単位以上 |
| | | DL133102 | ベーシック中国語Ⅱ | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133103 | ベーシック韓国語Ⅰ | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133104 | ベーシック韓国語Ⅱ | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133105 | ベーシックドイツ語Ⅰ | | 1 | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DL133106 | ベーシックドイツ語Ⅱ | | 1 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | DL133107 | ベーシックフランス語Ⅰ | | 1 | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DL133108 | ベーシックフランス語Ⅱ | | 1 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | DL133109 | ベーシックスペイン語Ⅰ | | 1 | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | DL133110 | ベーシックスペイン語Ⅱ | | 1 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | 海外研修科目 | DK156201 | 海外研修ⅠA | | 2 | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DK156202 | 海外研修ⅠB | | 2 | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DK156203 | 海外研修ⅠC | | 2 | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DK156404 | 海外研修Ⅱ | | 4 | 180 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | スポーツ・ライフスキル科目 | DS156101 | S L SⅠ | | 1 | 30 | ○ | | | | | | | |
| | | DS156102 | S L SⅡ | | 1 | 30 | | ○ | | | | | | |
| | | DS257103 | S L SⅢ | | 1 | 30 | | | ○ | | | | | |
| | | DS257104 | S L SⅣ | | 1 | 30 | | | | ○ | | | | |
| | フィールド・スタディ科目 | DD157201 | フィールド・スタディア | | 2 | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DD157202 | フィールド・スタディB | | 2 | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| DD157203 | | フィールド・スタディC | | 2 | 90 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |

単位数・授業時間数の考え方はp.8を参照

| 科 区 | 目 分 | 科目ナンバ | 授 業 科 目 | 単位数 | | 授業 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業要件 単位数 | |
|-------------------------------------|-----------------------|-------------------|------------------|------------|----|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------------|--|
| | | | | 必修 | 選択 | | 1 セメ | 2 セメ | 3 セメ | 4 セメ | 5 セメ | 6 セメ | 7 セメ | 8 セメ | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専門 基礎分野 | 人体のしくみ・ 疾病と治療 | RS111101 | 健康医療学概論 | 1 | | 30 | ○ | | | | | | | | 必修 38 単位 | |
| | | RS111102 | 解剖学Ⅰ | 1 | | 30 | ○ | | | | | | | | | |
| | | RS111103 | 解剖学Ⅱ | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | | | |
| | | RS111104 | 生理学Ⅰ | 1 | | 30 | ○ | | | | | | | | | |
| | | RS111105 | 生理学Ⅱ | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | | | |
| | | RS211106 | 病理学 | 1 | | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | RS311107 | 内科学 | 1 | | 30 | | | | | ○ | | | | | |
| | | RS211108 | リハビリテーション医学 | 1 | | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | RS211109 | 耳鼻咽喉科学 | 1 | | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | RS211110 | 小児科学 | 1 | | 15 | | | | ○ | | | | | | |
| | | RS211111 | 臨床神経学 | 1 | | 15 | | | | ○ | | | | | | |
| | | RS211112 | 形成外科学 | 1 | | 15 | | | | ○ | | | | | | |
| | | RS311113 | 精神医学 | 1 | | 15 | | | | | ○ | | | | | |
| | | RS211114 | 歯科・口腔外科学 | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | RS211215 | 神経系の構造・機能・病態 | 2 | | 60 | | | | ○ | | | | | | |
| | | RS311116 | 呼吸発声発語系の構造・機能・病態 | 1 | | 30 | | | | | | ○ | | | | |
| | | RS211117 | 聴覚系の構造・機能・病態 | 1 | | 30 | | | | | ○ | | | | | |
| | | RS211218 | 発達心理学 | 2 | | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | RS211219 | 学習・認知心理学 | 2 | | 30 | | | | | ○ | | | | | |
| | RS311220 | 臨床心理学 | 2 | | 30 | | | | | | ○ | | | | | |
| | RS211121 | 心理測定法 | 1 | | 30 | | | | | ○ | | | | | | |
| | 言語と コミュニケーション | RS114222 | 言語学 | 2 | | 30 | ○ | | | | | | | | | |
| | | RS114123 | 言語心理学 | 1 | | 15 | | ○ | | | | | | | | |
| | | RS113224 | 音声学 | 2 | | 30 | ○ | | | | | | | | | |
| | | RS133125 | 音声学演習 | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | | | |
| | | RS214126 | 音響学 | 1 | | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | RS214127 | 聴覚心理学 | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | | RS214128 | 言語発達学 | 1 | | 30 | | | | ○ | | | | | | |
| | 社会 保健 とリハビ リ | RS111129 | リハビリテーション概論 | 1 | | 30 | | ○ | | | | | | | | |
| | | RS111230 | 社会保障論 | 2 | | 30 | | ○ | | | | | | | | |
| | | RS136131 | 地域連携実践プロジェクト | 1 | | 45 | | ○ | | | | | | | | |
| | 専門 分野 | 言語聴覚 障害学 総論 | FM417201 | 地域言語聴覚療法 | 2 | | 30 | | | | | ○ | | | | 必修 59 単位 ※ 次 頁 へ 続 く |
| | | | FM111102 | 言語聴覚障害学概論Ⅰ | 1 | | 30 | ○ | | | | | | | | |
| FM111103 | | | 言語聴覚障害学概論Ⅱ | 1 | | 15 | | ○ | | | | | | | | |
| FM315104 | | | 言語聴覚障害学研究法 | 1 | | 15 | | | | | ○ | | | | | |
| FM434105 | | | 言語聴覚障害学総合演習Ⅰ | 1 | | 45 | | | | | | ○ | | | | |
| FM434206 | | | 言語聴覚障害学総合演習Ⅱ | 2 | | 90 | | | | | | | ○ | | | |
| FM434207 | | | 言語聴覚障害学総合演習Ⅲ | 2 | | 90 | | | | | | | ○ | | | |
| FM337108 | | | 卒業研究Ⅰ | 1 | | 30 | | | | | | ○ | | | | |
| FM437109 | | | 卒業研究Ⅱ | 1 | | 30 | | | | | | | ○ | | | |
| 失語・高次 脳 機 能 障 害 学 | | FM212210 | 失語・高次脳機能障害学Ⅰ | 2 | | 60 | | | | ○ | | | | | | |
| | FM212211 | 失語・高次脳機能障害学Ⅱ | 2 | | 60 | | | | | ○ | | | | | | |
| | FM312212 | 失語・高次脳機能障害学Ⅲ | 2 | | 60 | | | | | | ○ | | | | | |

| 科 区 | 目 分 | 科目ナンバ－ | 授 業 科 目 | 単位数 | | 授業 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業要件 単位数 | |
|------------------|---|-----------------------|-----------|-------|----|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|------------------------|
| | | | | 必修 | 選択 | | 1 セメ | 2 セメ | 3 セメ | 4 セメ | 5 セメ | 6 セメ | 7 セメ | 8 セメ | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専 門 分 野 | 障 害 学 語 語 達 | RM212213 | 言語発達障害学Ⅰ | 2 | | 60 | | | | ○ | | | | | | 必 修 59 単 位 |
| | | RM312214 | 言語発達障害学Ⅱ | 2 | | 60 | | | | | ○ | | | | | |
| | | RM312215 | 言語発達障害学Ⅲ | 2 | | 60 | | | | | | ○ | | | | |
| | 摂 食 嚥 下 障 害 学 ・ 発 音 障 害 学 | RM212216 | 音声障害学 | 2 | | 30 | | | ○ | | | | | | | |
| | | RM212217 | 構音障害学Ⅰ | 2 | | 60 | | | | ○ | | | | | | |
| | | RM312118 | 構音障害学Ⅱ | 1 | | 30 | | | | | ○ | | | | | |
| | | RM312119 | 構音障害学Ⅲ | 1 | | 30 | | | | | ○ | | | | | |
| | | RM312220 | 摂食嚥下障害学 | 2 | | 60 | | | | | ○ | | | | | |
| | | RM312121 | 吃音学 | 1 | | 30 | | | | | | ○ | | | | |
| | | 聴 覚 障 害 学 | RM212222 | 聴覚検査学 | 2 | | 60 | | | | ○ | | | | | |
| | RM312223 | | 補聴器・人工内耳 | 2 | | 30 | | | | | ○ | | | | | |
| | RM312224 | | 小児聴覚障害学 | 2 | | 60 | | | | | ○ | | | | | |
| | RM312125 | | 成人聴覚障害学 | 1 | | 15 | | | | | ○ | | | | | |
| | 言語聴覚療法管理学 | RM413226 | 言語聴覚療法管理学 | 2 | | 30 | | | | | | | | ○ | | |
| | 臨 床 実 習 | RM246127 | 臨床実習Ⅰ | 1 | | 40 | | | | ○ | | | | | | |
| | | RM346528 | 臨床実習Ⅱ | 5 | | 200 | | | | | | ○ | | | | |
| | | RM446929 | 臨床実習Ⅲ | 9 | | 360 | | | | | | | ○ | | | |
| | | RM236130 | 臨床実習演習Ⅰ | 1 | | 15 | | | | ○ | | | | | | |
| RM336131 | | 臨床実習演習Ⅱ | 1 | | 15 | | | | | ○ | | | | | | |
| RM436132 | 臨床実習演習Ⅲ | 1 | | 15 | | | | | | | ○ | | | | | |

単位数・授業時間数の考え方はp.8を参照

第3章 健康スポーツ学科

教育目的と3つのポリシー

<健康スポーツ学科の教育目的>

健康医学・スポーツ科学といった幅広い分野を融合させた学際的な先端教育研究によって、保健医療の知識や身体運動・スポーツに関わる実践のスキルを修得し、スポーツ教育・保健・福祉、そしてスポーツ・健康産業において、人々のウェルビーイングの実現に貢献する職業人の育成を目指す。

<卒業認定・学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

1. 知識・理解

1.1 健康スポーツ科学に関する専門的知識・技能を他領域の知識と関連づけながら修得し、健康スポーツ科学分野における諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

2.1 健康スポーツ科学分野に携わる職業人として、適切な方法を用いて必要な情報を収集し、活用できる。

2.2 対象者と信頼関係を築き、健康スポーツ科学分野に携わる職業人として、安全で効果的なスポーツ指導ができる技術を身につけ、問題を解決するための方策を立て、実践することができる。

3. 思考・判断・表現

3.1 健康スポーツ科学分野に関して修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。

3.2 自ら設定した健康スポーツ科学分野の主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

4.1 変容するグローバル社会や健康スポーツ科学分野の諸問題に継続的に関心を示し、知識や技能の研鑽に努め、常に向上心を持って、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

4.2 健康スポーツ科学分野の知識・技能に基づいて、多様な職種の人々とコミュニケーションを取り、協働しながら、自律的な職業人として行動できる。

<教育課程編成・実施の方針> (カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程編成

1.1 職業人としての基礎力、人間性および倫理観を養い、健康スポーツ科学分野に携わる者としての能力を育成するため、教育課程として現代リベラルアーツ科目および専門科目を配置します。

1.2 職業人としての教養、基礎学力・技能、語学力、協調性を修得することを目的に、「現代リベラルアーツ科目」を配置します。

1.3 各世代における健康行動の維持増進、健康寿命の延伸、安全で効果的な運動・スポーツ実践指導能力を育成するため、健康スポーツ科学に関する知識・技能、実践指導力を学修できる「専門科目」を系統的に配置します。

2. 学修方法・学修過程

(学修方法)

2.1 4年間の教育課程では、各科目を理論的に学修するだけでなく、実習およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

(学修過程)

2.2.1 現代リハビリアーツ科目では、健康スポーツ科学分野の職業人としての幅広い教養を学修し、主体的に行動できる職業人としての基礎力を学修します。

2.2.2 専門科目では実践や地域との連携を通して、社会で活躍するために求められる協働力、行動力、ライフスキル能力等の人間力、コミュニケーション力、リーダーシップを深めていきます。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

<入学受け入れの方針> (アドミッション・ポリシー)

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校で履修する国語、英語、数学、地理歴史、理科などについての基礎的な知識を持つ。
- ・課外の運動部活動などを通じて、スポーツ活動・身体活動を遂行するために必要な技能を修得しているとともに、健康や安全に関する一般的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・人の体と心の健康の維持・増進について考え、正しく判断する能力があり、それらを基に健康的な生活を実現できる力を持つ。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・健康やスポーツに関する知識と技能を主体的に学び修得する強い意欲を持つ。
- ・他者の多様な個性に理解を示し、あらゆる人々に対して利他的な精神で貢献する気持ちを持ち、知識と技能の修得のために多様な人々と協働して取り組める。

1. カリキュラムの構成

授業科目は、現代リベラルアーツ科目と専門科目に分かれます。現代リベラルアーツ科目では、これからの社会人に求められる教養（未来展望科目、学際コア科目）や基本的能力（アカデミック・リテラシー科目）、グローバル社会において必要な語学能力（英語科目、第二外国語科目）、協働性・リーダーシップ（スポーツ・ライフスキル科目）、大学での学びに必要な基礎能力（初年次科目、キャリア教育科目）などを学修します。

専門科目では、健康の維持・増進、健康寿命の延伸、身体パフォーマンスの向上およびアクティブ・ライフスタイルの実現に向けての理論と実践の有機的結合を目指し、健康スポーツ科学の専門基礎科目と専門応用科目、それらの実習・演習科目を学修します。他に、将来公務員を目指すための他学部共通科目も学修できます。

これらの現代リベラルアーツ科目と専門科目の学修を通して、グローバル社会で、活動的なライフスタイルを推進する人材・社会の実現に向けたスペシャリストを養成することを目標とします。

【カリキュラムの内容】

カリキュラムは、1・2年次は大学での学修に必要な基礎能力や社会人として求められる基本的能力と健康スポーツに関する基礎的な実習や演習の学修をします。2・3年次では健康スポーツに関する基礎知識を、3年次以降はより専門的な知識や能力、指導技術を修得できるよう、基礎から応用、理論と実践の融合を目指した構成にし、効果的な学びが進められるようにしています。

- 未来展望科目（生命の歩みと未来、クオリティ・オブ・ライフの探究など）
- 学際コア科目（心理学入門、健康とライフステージ、メディア・リテラシーなど）
- 初年次科目（初年次ゼミⅠ、初年次ゼミⅡ）
- アカデミック・リテラシー科目（日本語リテラシー、数的処理、情報リテラシーなど）
- 英語・異文化理解科目（英語、英会話、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語など）
- スポーツ・ライフスキル科目（SLS）
- キャリア教育科目（キャリアデザイン、企業実習、インターンシップ実習など）
- 専門基礎科目（健康スポーツ概論、機能解剖学、スポーツ教育論、スポーツ心理学、スポーツ原理、スポーツ社会学、運動生理学Ⅰ、コーチング論）
- 専門応用科目（スポーツとジェンダー、レジャー・レクリエーション論、スポーツ栄養学、スポーツ組織論、バイオメカニクス、体力測定評価論など）
- 専門実習科目（スポーツトレーニング実習、レクリエーション実習、健康フィットネス実習、体力測定評価実習、健康運動指導現場実習、ストレンクス&コンディショニング実習）
- 専門実技科目（野外運動、体づくり運動、水泳・水中運動、器械運動A、器械運動B、陸上競技A、陸上競技B、ゴール型球技A、ゴール型球技B、ネット型球技A、ネット型球技B、ベースボール型球技A、ベースボール型球技B、ダンス、柔道）
- 専門演習科目（実践プロジェクトⅠ、実践プロジェクトⅡ、スポーツパフォーマンス分析演習Ⅰ、スポーツパフォーマンス分析演習Ⅱ、健康運動療法演習、体育授業観察分析演習、スポーツマーケティング演習、アダプテッドスポーツ演習A、アダプテッドスポーツ演習B、スポーツ医学演習、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅡ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ）

2. 卒業に必要な単位数（卒業要件）

| 科目区分 | | 必修 | 卒業要件 | | |
|--------------------------|--------------------|---------------|----------------|--|--------------------------------|
| 現代リベラル アーツ科目 | 未来展望科目 | — | 2単位以上 | その他 現代リベラ ルアーツ 科目より 15単位 以上 | |
| | 学際コア 科目 | 人間と発達 | — | | 2単位以上 |
| | | 人間と社会 | | | |
| | | 人間と自然 | | | |
| | | 人間の複眼的理解 | | | |
| | 初年次科目 | 4 | 必修4単位 | | |
| | アカデミック・リテラシー科目 | 3 | 必修3単位を含む5単位以上 | | |
| | 語学・ 異文化理 解科目 | 英語科目 | 13 | | 必修13単位を含む14単位以上 ※上級英語Ⅰ・Ⅱを除く |
| | | 第二外国語科目 | — | | — |
| | | 海外研修科目 | — | | — |
| | スポーツ・ライフスキル科目 | 4 | 必修4単位 | | |
| キャリア教育科目 | 4 | 必修4単位を含む4単位以上 | | | |
| フィールド・スタディ科目 | — | — | | | |
| 他学部、大学コンソーシアム京都などで履修した科目 | | | | | |
| 小計 | | | 50単位以上 | | |
| 学科専門科目 | 基礎科目 | 4 | 必修4単位を含む10単位以上 | その他 学科専門 科目より 55単位 以上 | |
| | 応用科目 | — | — | | |
| | 実習科目 | — | — | | |
| | 実技科目 | 1 | 必修1単位 | | |
| | 演習科目 | 8 | 必修8単位 | | |
| 小計 | | | 74単位以上 | | |
| 合計 | | | 124単位以上 | | |

※現代リベラルアーツ科目から修得した単位数が50単位を超過した場合、その超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含みません。

3. 進級要件

上級学年に進級するためには、学科で定めた以下の要件を満たさなければなりません。

健康スポーツ学科

| | |
|-------------------------------------|---------|
| | 2年次終了時 |
| 卒業要件としての修得単位数 (成績表の「認定単位数」枠内の単位) | 64 単位以上 |
| 単位修得が必要な 「現代リベラルアーツ科目」必修科目 | 18 単位以上 |

4. 単位認定

1) 出席要件について

現代リベラルアーツ科目の必修科目（英語 IA～ⅢB、英会話 A～E、初年次ゼミⅠ・Ⅱ、キャリアデザインⅠ・Ⅱ、SLSI～Ⅳ）の出席要件は、15 回中 12 回以上であることが必要です。

その他現代リベラルアーツ科目や専門科目では、授業実施回3分の2以上であることが必要です。出席要件を満たすものが成績評価対象者となります。

2) 専門科目の成績評価にかかる出席について

健康スポーツ学科専門科目において、「実習科目」「実技科目」「演習科目」の成績評価対象者のうち、授業実施回5分の4の出席を満たさない場合は、60点を超えません。

表：実習科目・実技科目・演習科目の成績評価にかかる出席について

| 講義形式 | | 実習形式 | | 演習形式 |
|------|------|------------|------------|------------|
| 基礎科目 | 応用科目 | 実習科目 | 実技科目 | 演習科目 |
| 2/3 | 2/3 | <u>4/5</u> | <u>4/5</u> | <u>4/5</u> |

※2/3（3分の2）・・・全15回授業で、10回以上、全8回授業で、6回以上の出席。

※4/5（5分の4）・・・全15回授業で、12回以上の出席。

注）欠席の際は、その授業担当の教員に「先端なび」等を通じて、事前に「欠席事由」を連絡してください。

5. 主な履修計画

健康スポーツ学科では、学びの専門性と卒業後の進路に応じた4つのコースが設けられています。コースごとに推奨する科目があるので、漏れなく履修するよう計画してください。

1) 履修登録制限（CAP制）

各セメスターにおいて、履修登録できる単位数の上限は24単位です。「教職課程に関する科目」については、履修登録制限に含まれません。

2) 履修登録の留意点

履修登録は、必修科目の登録を優先してください。選択科目の履修登録にあたっては、必修科目と開講時限が重なる場合や、半期だけの科目が多いため、次年度以降の履修登録についても十分検討した上で履修計画を立てるよう心がけましょう。

6. 成績不振基準

履修を計画的に行い4年間で大学を卒業できるように指導するため、成績不振基準を設けています。成績不振基準を下回った場合、別途指導を受けることがあります。

表 成績不振基準（単位数）

| 年次 | 総修得単位数（成績表の「認定単位数」枠内の単位） |
|----|--------------------------|
| 1 | 1 セメスター終了時 必修科目の全てが未修得 |
| | 2 セメスター終了時 未修得必修科目あり |
| 2 | 3 セメスター終了時 未修得必修科目あり |
| | 4 セメスター終了時 64 単位以下 |
| 3 | 5 セメスター終了時 80 単位以下 |
| | 6 セメスター終了時 96 単位以下 |
| 4 | 7 セメスター終了時 112 単位以下 |
| | — |

※この基準のみならず、進級要件を満たせない場合や出席不良、必修科目の単位を修得していない等も成績不振基準となる場合があります。

7. コースと資格

健康スポーツ学科では、学びの専門性と卒業後の進路に応じた4つのコースを設け、コースごとに分かれて「実践プロジェクトⅠ・Ⅱ」の授業を行うとともに、コースの特徴に応じた学修の支援や履修指導を行っています。それぞれのコースには、卒業後の進路に有益な取得目標資格を設定しています。

| コース | コースの特徴 | 目標資格 | 目指す進路 |
|---------------|---|---|--|
| 健康運動指導コース | <p>人体の仕組みなど、健康に関わる分野の知識を基礎とし、体力測定法、運動指導法、運動プログラム作成法、運動療法、生活習慣病の予防などについて学びます。</p> <p>それらの知識・技能を活用して、一人ひとりのニーズに応じた身体づくり、健康増進をサポートできる力を養います。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 健康運動指導士 健康運動実践指導者 日本フィットネス協会公認GFI NSCA-CSCS レクリエーション・インストラクター | <ul style="list-style-type: none"> リハビリ等医療機関 メディカルフィットネス施設 健康・医療関連企業 トレーナー、インストラクター 大学院 |
| スポーツ教育コース | <p>保健体育科教員、健康運動・生涯スポーツ指導者になるための資質の向上を目指します。</p> <p>健康スポーツの専門知識の修得とともに、特別支援学校・小学校・中学校・高等学校の授業参観や、現職教員の講義、また教材研究や模擬授業、教職関連科目の学びを通して、教育現場や指導に必要な知識・技能・態度を身につけます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 中学校・高等学校保健体育科教員 健康運動指導士 初級バラスポーツ指導員 レクリエーション・インストラクター | <ul style="list-style-type: none"> 学校（中学校・高等学校） 教育関連団体 地方公共団体・施設等 大学院 |
| スポーツマネジメントコース | <p>健康・スポーツに関するビジネス現場を訪問し、体験を通して健康スポーツ実践のビジネス感覚の感性を磨くとともに、組織運営やマーケティングなどの理解を深め、問題解決力を身につけます。</p> <p>また、健康・スポーツのサービス職・マネジメント職に必要な知識創造の実践知を修得し、高めます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> アシスタントマネジャー クラブマネジャー（共通科目免除） 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 スポーツプログラマー | <ul style="list-style-type: none"> スポーツメーカー、物流、販売企業 プロ、実業団クラブ 地域スポーツ、フィットネスクラブ スポーツメディア 大学院 |
| ハイパフォーマンスコース | <p>スポーツ競技者のパフォーマンス向上とコーチング・支援する実践力を身につけることを目指します。</p> <p>スポーツ教育、コーチング、競技スポーツトレーニング、スポーツパフォーマンス分析、コンディショニングなどを中心に学び、幅広い視点からスポーツ競技者を科学的にコーチング、支援する力を育みます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 日本スポーツ協会公認指導者 コーチングアシスタント コーチ（共通科目免除） NSCA-CSCS 競技団体公認コーチ、審判員 | <ul style="list-style-type: none"> プロ、実業団、クラブの選手またはコーチ S&Cコーチ アナリスト 審判 スポーツジャーナリスト 大学院 |

(1) 中学校教諭一種免許状（保健体育）・高等学校教諭一種免許状（保健体育）

国公立・私立の中学校・高等学校で保健体育科教員として働くために必要な免許です。健康スポーツ学科の卒業要件単位の他に、教職科目の単位を修得する必要があります。

※ 教員免許取得を希望する者は、適時開催される教職課程のオリエンテーションに必ず出席し、別冊の「資格課程履修要項」を参照し履修登録してください。

(2) 健康運動指導士（受験資格）

保健医療関係者と連携しつつ、安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担います。

公益財団法人健康・体力づくり事業財団の認定資格です。

(3) 健康運動実践指導者（受験資格）

医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づいて、実践指導を行います。

公益財団法人健康・体力づくり事業財団の認定資格です。

(4) グループエクササイズフィットネスインストラクター（GFI）（受験資格）

現在の健康レベルを維持、または向上を目指す集団に対して指導を行う者を「グループエクササイズフィットネスインストラクター（GFI）」と位置づけています。健康関連フィットネス要素の「心肺持久力」「筋力・持久力」「柔軟性」に対応して指導できるエアロビックダンスインストラクター（ADI）、ウォーキングエクササイズインストラクター（WEI）、アクアウォーキングエクササイズインストラクター（AQWI）、レジスタンスエクササイズインストラクター（REI）、ストレッチングエクササイズインストラクター（SEI）の資格が取得できます。いずれの資格も下位資格であるベーシックインストラクターも取得できます。

公益財団法人日本フィットネス協会公認資格です。

(5) 認定ストレンクス&コンディショニングスペシャリスト（CSCS）（受験資格）

傷害予防とスポーツパフォーマンス向上を目的とした、安全で効果的なトレーニングプログラムを計画・実行する知識と技能を有する人材を認定します。

米国に本部がある National Strength and Conditioning Association（NSCA）の公認資格です。

(6) 初級バラスポーツ指導員

主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視した、スポーツの導入を支援します。

日本バラスポーツ協会の認定資格です。

(7) レクリエーション・インストラクター

レクリエーションを通して、人と人とのふれあいを深める技能を有する人材であり、地域における市民対象事業を考えて実施したり、子ども会や老人クラブ、社会福祉の現場、学校や職場の行事などで、広くレクリエーションの手助けを行います。

公益財団法人日本レクリエーション協会公認資格です。

(8) スポーツプログラマー

フィットネスの維持や向上についての専門的な知識と、各種トレーニング指導法に関するノウハウを持ち、スポーツ相談による各個人に適した身体づくりの実技指導と活動プログラムを提供します。

公益財団法人日本スポーツ協会公認資格です。

(9) アシスタントマネジャー

総合型地域スポーツクラブなどにおいて、クラブの運営に携わったり、これからお手伝いをしたいと考えたりしている人のための資格であり、クラブ運営の基礎を学ぶことができます。

公益財団法人日本スポーツ協会公認資格です。

(10) 日本スポーツ協会公認指導員・コーチ（共通科目免除適応コース）

トップリーグ・実業団等でのコーチングスタッフとして、ブロック及び全国大会レベルのプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行います。

公益財団法人日本スポーツ協会公認資格です。

現代リベラルアーツ科目一覧

| 科 目 区 分 | 科目ナンバ- | 授 業 科 目 | 単位数 | | 配当年次 | | | | 卒業要件単位数 | | |
|--------------------|------------|------------------|-----------------|------------|------|-----|-----|-----|-----------------------|-----------|-----------|
| | | | 必修 | 選択 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | | | |
| 現代リベラルアーツ科目 | 未来展望 科目 | DF114201 | コミュニティの再生 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | 2単位 以上 | |
| | | DF114202 | 生命の歩みと未来 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DF114203 | 多様性の尊重 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DF114204 | 科学技術の革新 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DF114205 | クオリティ・オブ・ライフの探究 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | DF114206 | 環境と開発 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 学際コア科目 | 人間と 発達 | DC111201 | 文学 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | 2単位 以上 |
| | | | DC111202 | 哲学 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111203 | 心理学入門 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111204 | 現代史 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111205 | 健康とライフステージ | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111206 | 健康スポーツ理論 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 人間と 社会 | DC111207 | 経済学入門 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111208 | 経営学入門 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111209 | 法学 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111210 | 人権の歴史と現代 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111211 | 日本国憲法 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111212 | 地政学 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 人間と 自然 | DC111213 | 文化社会学 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111214 | 生物学入門 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111215 | 微生物の世界 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111216 | 京の食材 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111217 | 科学技術史 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111218 | 分子遺伝学 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 人間の 複眼的 理解 | DC111219 | 数理統計学 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | DC111220 | 生命倫理学 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | DC111221 | | ビジネス・データサイエンス入門 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | DC111222 | | メディア・リテラシー | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | DC111223 | | リベラルアーツ特別講義A | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | DC111224 | | リベラルアーツ特別講義B | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 初年次科目 | DU134201 | 初年次ゼミⅠ | | 2 | ○ | | | | 必修 4単位 | | |
| | DU134202 | 初年次ゼミⅡ | | 2 | ○ | | | | | | |
| アカデミック・ リテラシー科目 | DA134101 | 日本語リテラシーⅠ | | 1 | ○ | | | | 必修3単位 を含む5単 位以上 | | |
| | DA134102 | 日本語リテラシーⅡ | | 1 | ○ | | | | | | |
| | DA132103 | 情報リテラシーⅠ | | 1 | ○ | | | | | | |
| | DA132104 | 情報リテラシーⅡ | | 1 | ○ | ○ | | | | | |
| | DA232105 | 数的処理基礎 | | 1 | | ○ | ○ | | | | |
| | DA232206 | AI・データサイエンス基礎 | | 2 | | ○ | ○ | | | | |
| | DA234207 | アカデミック・ライティングⅠ | | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | |
| | DA235208 | アカデミック・ライティングⅡ | | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | |

必修28単位を含む50単位以上（ただし、他学科、他学部などで修得した単位を含むことができない）

| 科 目 区 分 | 科目ナンバ- | 授 業 科 目 | 単位数 | | 配当年次 | | | | 卒業要件単位数 | |
|------------------|---------------|-------------|-------------|-------|------|-----|-----|-----|---------|---|
| | | | 必修 | 選択 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | | |
| 現代リベラルアーツ科目 | 語学・異文化理解科目 | 英語科目 | DE131201 | 英語ⅠA | 2 | | ○ | | | 必修13単位のほか、英語ⅢA又は英語ⅢBから1単位以上 |
| | | | DE131202 | 英語ⅠB | 2 | | ○ | | | |
| | | | DE231203 | 英語ⅡA | 2 | | | ○ | | |
| | | | DE231204 | 英語ⅡB | 2 | | | ○ | | |
| | | | DE331105 | 英語ⅢA | | 1 | | | ○ | |
| | | | DE331106 | 英語ⅢB | | 1 | | | ○ | |
| | | | DE133107 | 英会話A | 1 | | ○ | | | |
| | | | DE233108 | 英会話B | 1 | | | ○ | | |
| | | | DE233109 | 英会話C | 1 | | | ○ | | |
| | | | DE333110 | 英会話D | 1 | | | | ○ | |
| | | | DE333111 | 英会話E | 1 | | | | ○ | |
| | | | DE333112 | 上級英語Ⅰ | | 1 | ○ | ○ | ○ | |
| | DE333113 | 上級英語Ⅱ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 第二外国語科目 | DL133101 | ベーシック中国語Ⅰ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | 必修28単位を50単位以上(ただし、他学科、他学部などで修得した単位を50%とがぞる) |
| | | DL133102 | ベーシック中国語Ⅱ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133103 | ベーシック韓国語Ⅰ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133104 | ベーシック韓国語Ⅱ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133105 | ベーシックドイツ語Ⅰ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133106 | ベーシックドイツ語Ⅱ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133107 | ベーシックフランス語Ⅰ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133108 | ベーシックフランス語Ⅱ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133109 | ベーシックスペイン語Ⅰ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DL133110 | ベーシックスペイン語Ⅱ | | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 海外研修科目 | DK156201 | 海外研修ⅠA | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | 必修4単位 |
| | | DK156202 | 海外研修ⅠB | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DK156203 | 海外研修ⅠC | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | DK156404 | 海外研修Ⅱ | | 4 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | スポーツ・ライフスキル科目 | DS146101 | SLSⅠ | | 1 | | ○ | | | 必修4単位 |
| | | DS146102 | SLSⅡ | | 1 | | ○ | | | |
| | | DS247103 | SLSⅢ | | 1 | | | ○ | | |
| | | DS247104 | SLSⅣ | | 1 | | | ○ | | |
| | キャリア教育科目 | DR114201 | キャリアデザインⅠ | | 2 | | ○ | | | 必修4単位 |
| | | DR114202 | キャリアデザインⅡ | | 2 | | ○ | | | |
| | | DR236103 | キャリア形成実践演習Ⅰ | | 1 | | | ○ | | |
| | | DR236104 | キャリア形成実践演習Ⅱ | | 1 | | | | ○ | |
| | | DR157105 | 企業実習Ⅰ | | 1 | ○ | ○ | | | |
| DR157206 | | 企業実習ⅡA | | 2 | ○ | ○ | | | | |
| DR157207 | | 企業実習ⅡB | | 2 | ○ | ○ | | | | |
| DR157408 | | 企業実習Ⅲ | | 4 | ○ | ○ | | | | |
| DR357109 | | インターンシップ実習Ⅰ | | 1 | | | | ○ | ○ | |
| DR357210 | インターンシップ実習Ⅱ | | 2 | | | | ○ | ○ | | |
| DR357411 | インターンシップ実習Ⅲ | | 4 | | | | ○ | ○ | | |
| フィールド・スタディ科目 | DD157201 | フィールド・スタディA | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | 必修4単位 | |
| | DD157202 | フィールド・スタディB | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | DD157203 | フィールド・スタディC | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |

| 区分 | 科目 ナンバー | 授業科目 | 単位数 | | 授業 時間 数 | 配当年次 | | | | 卒業要件 単位数 | ハイパ フオー メン ス | 健康 運動 指導 | マ ス シ メ ン ト 教 育 | マ ス シ メ ン ト | |
|--------|------------|----------|----------------|----|---------------|------|----|----|----|-------------|-----------------------|----------------|--------------------------------------|----------------------------|---|
| | | | 必修 | 選択 | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | | | |
| | | | | | | 年次 | 年次 | 年次 | 年次 | | | | | | |
| 学科専門科目 | 基礎科目 | TB114201 | 健康スポーツ概論 | 2 | | 30 | ○ | | | | | ● | ● | ● | ● |
| | | TB111202 | 機能解剖学 | 2 | | 30 | ○ | | | | | ● | ● | ● | ● |
| | | TB111203 | スポーツ教育論 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ◎ | | ◎ | |
| | | TB111204 | スポーツ心理学 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TB111205 | スポーツ原理 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | | TB111206 | スポーツ社会学 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ |
| | | TB215207 | 運動生理学Ⅰ | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | |
| | | TB215208 | コーチング論 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | ◎ | | ◎ | |
| | 応用科目 | TO217201 | スポーツとジェンダー | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| | | TO221202 | レジャー・レクリエーション論 | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TO216203 | スポーツマネジメント | | 2 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | ◎ |
| | | TO221204 | スポーツ栄養学 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TO211205 | 衛生学・公衆衛生学 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TO211206 | スポーツ組織論 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ |
| | | TO211207 | 競技スポーツトレーニング論 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | ◎ | | | |
| | | TO211208 | 健康スポーツトレーニング論 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TO215210 | 体力測定評価論 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | |
| | | TO321211 | 救急・応急処置 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TO216209 | 地域スポーツ経営論Ⅰ | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ |
| | | TO316218 | 地域スポーツ経営論Ⅱ | | 2 | 30 | | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| | | TO315212 | 運動処方論 | | 2 | 30 | | | | ○ | ○ | | ◎ | | |
| | | TO315215 | 運動生理学Ⅱ | | 2 | 30 | | | | ○ | ○ | | | | |
| | | TO311216 | 運動疫学 | | 2 | 30 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | TO311217 | 学校保健 | | 2 | 30 | | | | ○ | ○ | | | | |
| | | TO311219 | 生活健康医療論 | | 2 | 30 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | TO311213 | スポーツ運動学 | | 2 | 30 | | | | ○ | ○ | | | | |
| | | TO321214 | バイオメカニクス | | 2 | 30 | | | | ○ | ○ | | | | |
| | | TO312220 | リハビリテーション概論 | | 2 | 30 | | | | ○ | ○ | | | | |

必修4単位を含む10単位以上

必修13単位を含む74単位以上

| 区分 | 科目 ナンバー | 授業科目 | 単位数 | | 授業 時間 数 | 配当年次 | | | | 卒業要件 単位数 | ハイ パフォーマンス | 健康 運動 指導 | スポ ーツ 教育 | マ ネ ジ メ ン ト | |
|----------|------------|---------------|--------------------|----|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|----------------|----------------|----------------------------|---|
| | | | 必修 | 選択 | | 1 年 次 | 2 年 次 | 3 年 次 | 4 年 次 | | | | | | |
| 学科専門科目 | 実習科目 | TP243101 | スポーツトレーニング実習 | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TP243102 | レクリエーション実習 | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TP243103 | 健康フィットネス実習 | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | | TP342104 | 体力測定評価実習 | | 1 | 30 | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | | TP353105 | 健康運動指導現場実習 | | 1 | 30 | | | ○ | ○ | | | | | |
| | | TP347106 | ストレングス&コンディショニング実習 | | 1 | 30 | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | 実技科目 | TQ153101 | 野外運動 | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ● | ● | ● | ● |
| | | TQ243102 | 体づくり運動 | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ243103 | 器械運動A | | 1 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ343104 | 器械運動B | | 1 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ243105 | 陸上競技A | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ343106 | 陸上競技B | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ253107 | 水泳・水中運動 | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ243108 | ゴール型球技A | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ343109 | ゴール型球技B | | 1 | 30 | | | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ243110 | ネット型球技A | | 1 | 30 | | | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ343111 | ネット型球技B | | 1 | 30 | | | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ243112 | ベースボール型球技A | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ343113 | ベースボール型球技B | | 1 | 30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ243114 | ダンス | | 1 | 30 | | | ○ | ○ | | | | | |
| | | TQ243115 | 柔道 | | 1 | 30 | | | ○ | ○ | | | | | |
| | 演習科目 | TG357201 | 実践プロジェクトⅠ | | 2 | 30 | | ○ | | | | | | | |
| | | TG357202 | 実践プロジェクトⅡ | | 2 | 30 | | ○ | | | | | | | |
| | | TG332203 | スポーツパフォーマンス分析演習Ⅰ | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | | TG432204 | スポーツパフォーマンス分析演習Ⅱ | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | | TG334205 | 健康運動療法演習 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | TG332206 | 体育授業観察分析演習 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | ◎ | | |
| TG332207 | | スポーツマーケティング演習 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | ◎ | | |
| TG333208 | | アダプテッドスポーツ演習A | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| TG433209 | | アダプテッドスポーツ演習B | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| TG331210 | | スポーツ医学演習 | | 2 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | ◎ | | | | |
| TG435211 | | 専門ゼミⅠ | | 2 | 30 | | ○ | | | | ● | ● | ● | ● | |
| TG435212 | | 専門ゼミⅡ | | 2 | 30 | | ○ | | | | ● | ● | ● | ● | |
| TG465213 | | 卒業研究Ⅰ | | 2 | 30 | | ○ | | | | ● | ● | ● | ● | |
| TG465214 | | 卒業研究Ⅱ | | 2 | 30 | | ○ | | | | ● | ● | ● | ● | |

必修1単位
必修13単位を含む74単位以上
必修8単位

- 学科必修科目
- ◎ コース必修科目
- コース推奨科目

※教職課程の詳細は「資格免許課程 履修要項」を参照してください。

第4章 大学共通

インターンシップ（企業実習）プログラム

目的

「世界で活躍できる人材になってほしい」。学生が卒業後も豊かな人生を送れるように、インターンシップ推進課では、キャリアマネジメント課と共にキャリア教育を行っています。インターンシップを通じて働く意味はもちろんのこと、社会から求められる人材についての“学び”や“気づき”を得て、進路や学生生活の充実を図ることを目的としています。

全学共通型インターンシップ（本学主催）

全学生対象の全学共通型インターンシップ（企業実習）は、4月に説明会を行い、学内選考を経て実習先を決定します。その後、夏季休暇を利用し、2週間～1カ月程度の実習を経験します。また、実習経験をより良いものとするために、事前・事後学習を行います。事前学習では、業界・企業研究を通じて実習先への理解を深めます。実習後の事後学習では、様々な角度で自身を振り返り、成果報告会にて学びや気づき、そして今後の目標などを発表します。海外・国内ともに多様なプログラムを提供しています。

全学共通型インターンシップは海外コースと国内コースの2種類のプログラムがあり、応募段階でどちらのコースを希望するか選択していただけます。

「海外コース」・・・海外へ渡航し、現地企業および団体にて実習を行う。

実習例）某都銀米国支店での金融実務、某メーカー欧州統括拠点での管理実務、米国の菓子製造会社での実務等。

「国内コース」・・・国内の企業および団体にて実習を行う。

実習例）メーカー、金融、IT、食品、スポーツなど、多様な業界・職種の受入先が100社以上あり。

※2024年度実績：海外コース、国内コース合わせて200名以上が参加。

<スケジュール>

4月 説明会・募集・出願

5月 学内選考

6～7月 事前授業

8～9月 実習

10月 事後授業および成果報告会

<履修手続き>

学内選考通過後に教務センターにて登録を行います。

※履修登録の取り消し（辞退）は、学内選考通過後3日以内にインターンシップ推進課へ申し出てください。

<単位認定について>

プログラムを修了した者については、評価基準に応じて採点の上、単位認定を行います。認定された単位は、各学部のカリキュラムで想定されている範囲内で要卒単位に含まれます。

キャリアディベロップメントセンター・インターンシップ推進課

京都太秦キャンパス 西館1F インターンシップ推進課

《窓口取扱時間》 月～金 8:30～17:00（大学が定める休業日を除く。長期休業期間中は時間変更有。）

TEL：075-406-9260 E-Mail：intern@kuas.ac.jp

大学コンソーシアム京都 単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、他の加盟大学・短期大学において修得した授業科目の単位を自大学の単位として修得したものとみなされる制度です。現在では約50校の加盟校と協定を締結し、多くの学生が多種多様な学問分野の講義を履修しています。

1. 出願手続き

(1) ガイダンス

オリエンテーション期間中に、本学「先端なび」に出願方法についての案内を掲示します。受講希望者は、期日までに、所定の出願手続きを行ってください。

(2) 出願方法

大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」上でのオンライン出願となります。

まず、アカウントを作成してください。次に、受講希望科目の出願登録を行って、所定期日までに教務センターに申請報告をしてください。

単位互換科目の登録・履修制限は、当該年度で3科目以内です。本学の履修登録制限単位数には含まれません。

(3) 各科目の詳細

大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」で検索・閲覧してください。

2. 履修許可および履修手続き

大学コンソーシアム京都単位互換科目は、全科目定員制です。科目開設大学で書類選考等を実施し、履修可否は、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。

履修許可を受けた場合、科目開設大学から指示された所定の手続きを行ってください。

3. 科目開設大学からの諸連絡

授業に関するお知らせ・休講・補講・試験等については、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。また、大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」にて、各自で確認してください。

4. 単位認定について（健康医療学部看護学科・言語聴覚学科除く）

履修登録が正しくできており、一定の要件を充たした場合は、単位が認定されます。受講した科目名にかかわらず、本学の成績表には「単位互換（コンソーシアム）」という科目名で表示されます。評価欄には単位認定を意味する「N」と表示され、点数は表示されません。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。

卒業年次の場合、科目開設大学からの成績通知が、本学の卒業判定に間に合わない場合があります。単位互換科目の単位認定の可否が、卒業判定に影響するような受講は避けてください。

5. 「大学コンソーシアム京都 インターンシップ・プログラム」について

例年4月頃に、一般の単位互換科目履修登録とは別に登録申請を受け付けます（年1回）。受講が許可され、一定の要件を充たした場合「インターンシップ実習」という科目名で単位認定されます。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。詳細は、インターンシップ推進課に照会してください。

放送大学 単位互換制度

放送大学はBSテレビ・ラジオ、インターネット等を通して、大学教育の機会を幅広く提供している正規の通信制大学です。本学は放送大学と単位互換協定を締結しており、本制度を適用している学部が、放送大学の科目を「特別聴講学生」として履修し単位を修得した場合、その単位が本学の卒業要件単位として認定されます。（各学部カリキュラムの規定があります。）

1. 出願手続き

(1) ガイダンス

履修・出願方法については本学「先端なび」で掲示します。

放送大学の第1学期(4月～9月)の受講については前年度の1月頃、第2学期(10月～3月)の受講については7月頃に案内します。

(2) 放送大学授業期間と試験期間

第1学期 授業期間：4月～9月 試験期間：7月中旬～下旬頃

第2学期 授業期間：10月～3月 試験期間：1月中旬～下旬頃

(3) 出願方法

各キャンパスの教務センターで、「特別聴講学生出願書類」「授業科目案内」を受け取り、所定の書類を本学の教務センターに提出してください。放送大学ホームページからのインターネット出願、また放送大学への直接の出願はできません。必ず本学の教務センターを通じて出願してください。

出願期間は、第1学期(4月～9月)は前年度の1月頃、第2学期(10月～3月)は7月頃です。

(4) 履修可能科目と単位数

本学「先端なび」で掲示する「放送大学開設授業科目一覧」、放送大学のWEBサイトで検索・閲覧してください。放送大学で履修する科目は履修登録制限単位数には含まれません。

2. 履修許可

放送大学で履修が許可されると出願学生の住所に合格通知書と払込取扱票が放送大学より送付されます。期日までに自身で学費を納付すると、学生の登録住所に印刷教材・入学許可書等が届きます。

3. 単位認定について（バイオ環境学部・健康医療学部・工学部は除く）

放送大学で修得した単位は受講科目名にかかわらず、本学の成績表には「単位互換（放送大学）」という科目名で表示されます。評価欄には単位認定を意味する「N」と表示され、点数は表示されません。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で、要卒単位に算定されます。

卒業予定 Semester（学期）での受講はできません。また進級判定を行う Semester で受講し、放送大学からの成績通知が本学の進級判定に間に合わない場合は、成績の可否に関係なく進級要件としての修得単位数には算定されません。単位互換科目の単位認定の可否が、進級判定に影響するような受講は避けてください。

国内留学（札幌学院大学・沖縄国際大学）

【趣旨及び留学先】

本学と札幌学院大学及び沖縄国際大学との間で、教育研究の発展に資するため、大学間で単位互換に関する協定（包括協定）を結んでいます。これによりお互いに学生を交換し、交流及び学修ができるようになっています。

【資格及び決定手順】

資格：原則として、先方で留学する学年が2年次以上で、留学先での目的が明確かつ成績優秀な者。

決定手順：本学において希望する学生を選考のうえ、学長が推薦します。

相手先で受け入れについて審議された後決定します。（2月下旬予定）

【留学期間】

1年（春学期から）または半年（春学期または秋学期）とします。

札幌学院大学は、完全なセメスター制ではありませんので、半年での科目履修は限定されます。

【学修・単位】

履修指導：留学先の大学のカリキュラムに基づいて、履修指導を受けます。

留学先で修得した単位：学則に基づき、**60単位まで要卒単位として認定されます。**

【経費】

留学中の学費：本学に所定の学費を納めます。留学先に納める必要はありません。

その他の実習費等は、自己負担となります。

【出願手続】

希望する留学先を決め、願書及び履歴書等を本学教務センターへ提出します。（11月下旬頃）

詳細は「先端なび」からお知らせします。

提出必要書類等

- | | |
|--------------|------------------------|
| ① 願書 | （受入大学の様式。教務センターで配布） |
| ② 履歴書・自己紹介書 | （受入大学の様式。教務センターで配布） |
| ③ 履修登録予定科目一覧 | （本学の様式。教務センターで配布） |
| ④ 健康診断証明書 | （本学保健室に申し込む：手数料 340 円） |
| ⑤ 写真 | （学生証用 4×3.3 cm） |

【学籍】

国内留学期間：「留学」という学籍になり、在学期間に含まれます。

留学により卒業の時期が延びることはありません。

手続：留学が決定した後、留学願を本学教務センターに提出します。

留学が終了した後、留学終了届を本学教務センターに提出します。

【留学先での身分及び生活等】

札幌学院大学では特別科目等履修生、沖縄国際大学では特別聴講学生の身分になります。

留学先では、学生生活に必要な施設及び制度を利用することができます。

留学期間中の滞在先が決まっていない場合は、留学先の大学と相談しながら下宿先を探します。

【その他】

学則（本学および留学先の大学）に違反するとき、又は修学状況が悪いときは、資格を取り消すことがあります。

海外留学・海外研修 相談窓口 国際センター

本学ではより多くの学生の皆さんに海外経験の機会を提供することを目指し、さまざまな海外留学・海外研修プログラムを用意しています。海外提携校との交換留学プログラム、海外での短期研修など多種多様です。また、事前学習などのプログラムも設け、海外での学習の準備が整えられるようにしています。

海外留学・海外研修を実りあるものにするためには、第一に強い意欲と目的意識が必要となりますが、情報収集や事前準備もしっかりと行う必要があります。各プログラムの詳細は国際センターで確認してください。

1. 交換留学プログラム

【交換留学について】

本学では、海外の大学と協定を結び、交換留学プログラムを実施しています。交換留学では、約半年間あるいは約1年間、海外の大学に在籍し、学生として留学先大学の学生と同じ授業を受けます。交換留学期間中の本学での学籍は「留学」となり、休学ではなく在学期間に含まれます。

【応募時期】

春と秋の年2回あり、詳細は「先端なび」でお知らせします。

【交換留学の出願資格】

- 留学出発時点で1年以上本学に在学していること。
- 出願時の通算GPAが2.0以上であること。
- 出願時において、前セメスターまでの必修科目を修得していること。
- 出願時において、1セメスターあたり平均20単位以上修得していること。（*1）
- 派遣先大学の定める基準を満たしていること。

*1：認定科目及び春学期に成績の出ない科目は、単位を修得したものとす。

【交換留学先で修得した単位の認定】

1セメスターで24単位、2セメスターで48単位を限度として単位認定されます。他大学等で修得した単位と合計して60単位を限度として卒業要件単位に含まれます。

（注）ただし、交換留学先で修得した単位が必ずしも本学の単位として認定されるとは限りません。

【交換留学先一例】 交換留学先は追加・変更となる場合があります。

| 国・地域名 | 交換留学協定締結校名 |
|-----------|--------------------|
| アメリカ合衆国 | ノースセントラル大学 |
| 台湾 | 國立高雄餐旅大学 |
| タイ王国 | カセサート大学 |
| | ランシット大学 |
| インドネシア共和国 | IPB農業大学 |
| ドイツ | ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ |

2. 海外研修プログラム

各海外研修の詳細は、国際センターに問い合わせてください。

本学が主催するプログラムの具体的な内容については、先端なびの掲示等でお知らせします。過去の研修内容は、本学の公式ウェブサイトに公開しています。

外部機関が主催するプログラムについても、国際センターにて案内することが可能です。

(1) 海外研修の単位修得について

海外研修の単位取得に関する詳細は、教務センターに問い合わせてください。

事前に教務センターに申請を行い、許可を得られた場合において、所定の要件を充たせば成績評価の対象となります。

| 科目名称 | 単位数 | 成績評価方法 | 対象 |
|--------|-----|--|---------------------------------------|
| 海外研修ⅠA | 2単位 | 外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。 | ①本学または本学と提携の大学が行う海外研修 ②個人で参加する海外研修 |
| 海外研修ⅠB | 2単位 | 海外研修ⅠAを履修した者が外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。 | |
| 海外研修ⅠC | 2単位 | 海外研修ⅠBを履修した者が外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。 | |
| 海外研修Ⅱ | 4単位 | 外国の大学等で語学研修等を1か月程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。 | |

- 海外の大学等の同一機関で同一レベルの語学研修等を重複して行った場合、単位認定の対象になるのは一方のみです。
- 履修登録制限には含まれません。

(2) 単位認定の申請方法

- 「海外研修」の単位認定を希望する場合は、事前指導を受けてから研修先を決定してください。
- 海外研修を修了した者は、修了証明書の写し及び指定されたレポートを担当者に提出してください。
- 履修登録及び単位認定は帰国後当該年度に行います。ただし、派遣先大学からの成績発表時期により、履修登録及び単位認定が当該年度中に間に合わない場合、翌年度に行います。
- 前各項にかかわらず、本学が行う「海外研修」に関する指導は別途行います。

(3) 海外研修期間中の学籍

「留学」にはなりません。

キャリア・就職支援体制

本学では入学から卒業までの4年間を通してのキャリア支援を行っています。未知なる可能性を秘めているみなさんが、自身の目標や夢を達成していくために早い時期から日本が直面する将来の変化を知り、その上で「なりたい自分」や「やりたい仕事」について考えを巡らし、行動して欲しいと願っています。

※1看護学科・言語聴覚学科は実施されません

| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|---|--|--|-------------------------------|-----|-----|
| キャリア教育（正課） | 【① キャリア教育】 春学期：キャリアデザインⅠ 秋学期：キャリアデザインⅡ | 【① キャリア教育】 春学期：各専門科目 (キャリア意識醸成) 秋学期：キャリア形成実践演習Ⅰ | 【① キャリア教育】 春学期：キャリア形成実践演習Ⅱ | | |
| | 【②インターンシップ(企業実習)プログラム】 | | | | |
| 就職支援(課外) | <u>将来について考える</u> | | | | |
| | 【①キャリア教育】を通して早い時期から日本が直面する将来変化を知り、人生設計の中で働くことの意味を考えます。その上で卒業後の進路イメージを形成し、将来の目標を設定。3年次に本格化する就職活動に向け、基本的知識とスキルを身に付けます。 | | | | |
| | <u>仕事を知る・体験する</u> | | | | |
| | 【②インターンシップ(企業実習)プログラム】では実社会で実際に仕事を体験し、仕事観・職業観を培うとともに実社会で働く上で必要な知識やスキルに気付き、大学に戻ってから学びを深めて身に付けていきます。1年次から参加可です。プログラム以外の企業が実施するインターンシップ情報は、学内求人システム「Job KUAS」より検索することができます。 | | | | |
| <u>資格取得を目指す・スキル能力を向上する</u> | | | | | |
| 各種検定試験合格のための【⑧資格取得支援講座】を多数開講。皆さんの将来に繋がる「キャリアづくり」をサポートしています。 | | | | | |
| <u>公務員を目指す</u> | | | | | |
| 外部機関が実施している講座を大学提供価格で受講し対策することができます。【⑨公務員対策】 | | | | | |
| <u>就職活動の対策をする</u> | | | | | |
| 3年次から本格的に始まる就職活動に向けて全面的にバックアップしています。履歴書作成、筆記試験、面接などの対策講座だけでなく、みなさん一人ひとりの就職相談の場として個人面談も実施しています。蓄積された企業に関する豊富な情報も提供しているので企業選びにも是非活用してください。【③個人面談】【⑤就職支援行事】【⑥就職関連情報の提供】【⑦就職筆記試験対策講座】 | | | | | |
| 2024年度は約300社の企業の人事ご担当者をお招きして【④学内合同業界研究セミナー】を実施。各企業による事業内容だけでなく仕事内容についても話を聞く機会にもなり、目前に迫る職業選択に役立ちます。セミナーをきっかけに内定につながるケースもあります。 | | | | | |

- ① キャリア教育
卒業後の進路として働くことの意味を考えるとともに企業や社会との接点を設けるなど、体系的なプログラムです。
【1年次：キャリアデザイン】日本が直面する社会・構造変化を理解し、人生100年時代において「働く」ことの意味・意義を考えます。
【2・3年次：キャリア形成実践演習】3年次から本格的に始まる就職活動に向けて、基本的な知識とスキルの習得に加え、社会と自分自身の関わり方として具体的に「業界・企業・職種」への理解を深めます。
【キャリアフェスティバル】様々な業界で実務経験のある教職員が講師となり、自分の経験を基に働く意味を語りかけます。就職活動や将来の職業選択について新たな気づきを得る機会です。（2024年度は約45名の講師が登場）
- ② インターンシップ（企業実習）プログラム
本書「第4章 大学共通 インターンシップ（企業実習）プログラム」をご参照下さい。
- ③ 個人面談（対面、オンラインで実施しています。）
就職活動や卒業後の進路に少しでも不安があればまず個人面談を利用しましょう。進路相談だけでなく、自己分析や自己PR、学生時代に取り組んだことを明確に言語化をすることで、選考に必要な履歴書の完成も目指します。企業選択においては様々な業界・職種を知りながら、自分自身の希望や適性に照らして志望企業を決めていきます。また志望に応じた求人情報も案内しています。「Job KUAS」から予約をして、是非面談を活用してください。
- ④ 学内合同業界研究セミナー（主として3年次対象）
2024年度は約300社の企業に参加頂き、学内合同業界研究セミナーを実施しました。卒業生が在籍している企業はじめ、本学の学生を採用したいと考える企業が一堂に会し、業界や仕事の内容を紹介されました。興味がないと思っていた企業でも話を聞くことで視野が広がる良い機会です。就職活動をする人は必ず参加してください。
- ⑤ 就職支援行事（主として3・4年次対象）
就職活動をスムーズにスタートするため「①自分を知る、②業界、企業を知る、③選考に向けて準備する」のセミナー等を開催しています。（就職活動準備、自己分析、履歴書、エントリーシート、志望動機、面接、グループディスカッション）
- ⑥ 就職関連情報の提供
学内求人システム「Job KUAS」で大学求人を公開しています。このほか、学外での企業説明会、各種セミナーなどは「先端ナビ>就職ポータル」で紹介しています。就職活動に重要な情報のみが掲載されますので、「Job KUAS」と「先端ナビ>就職ポータル」は毎日確認をしましょう。
- ⑦ 就職筆記試験対策講座
選考時に実施される就職筆記試験（SPIやCAB/GAB）の勉強は欠かせません。年間を通して対策講座を実施していますので自分の実力を知り、知識習得に励みましょう。
- ⑧ 資格取得支援講座
マイクロソフトのMOSや秘書検定などの基本的な資格から、簿記会計や販売士、宅建、ファイナンシャルプランニングなど専門的な資格まで、各種講座をラインナップしています。
- ⑨ 公務員対策
外部機関の講座を大学価格で提供しています。自身に合った学習方法を選択し試験対策することができます

キャリアディベロップメントセンター・キャリアマネジメント課

みなさんの就職活動や資格取得の支援をしているのが「キャリアマネジメント課」です。

《京都太秦キャンパス（西館1階）窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

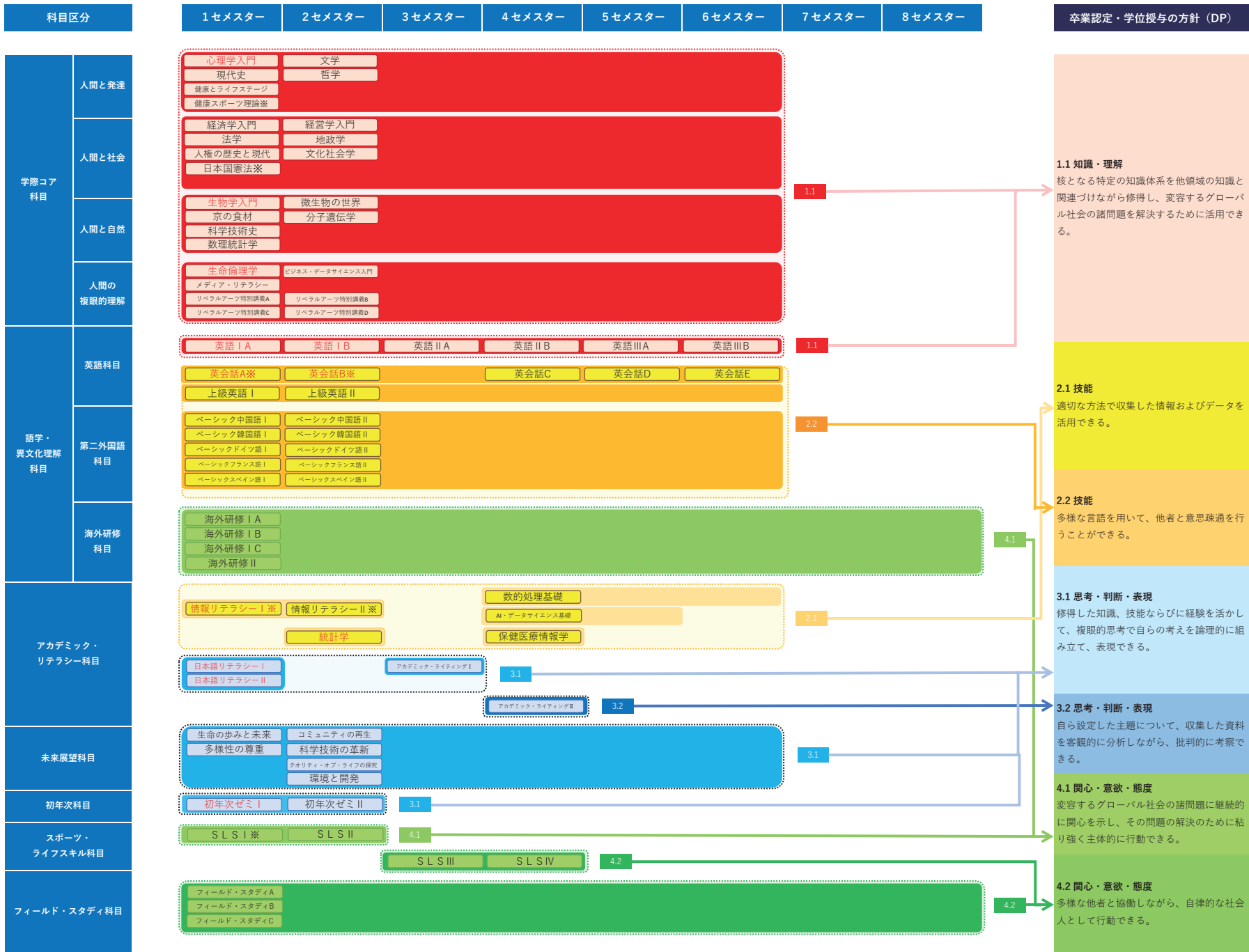
| | | | |
|-----|------------|------------------|------------------------------------|
| 月～金 | 8:30～17:00 | TEL:075-406-9260 | E-Mail:career@kuas.ac.jp（両キャンパス共通） |
|-----|------------|------------------|------------------------------------|

《京都亀岡キャンパス（楠風館1階）窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

| | | |
|-----|------------|------------------|
| 月～金 | 8:30～17:00 | TEL:0771-29-2260 |
|-----|------------|------------------|

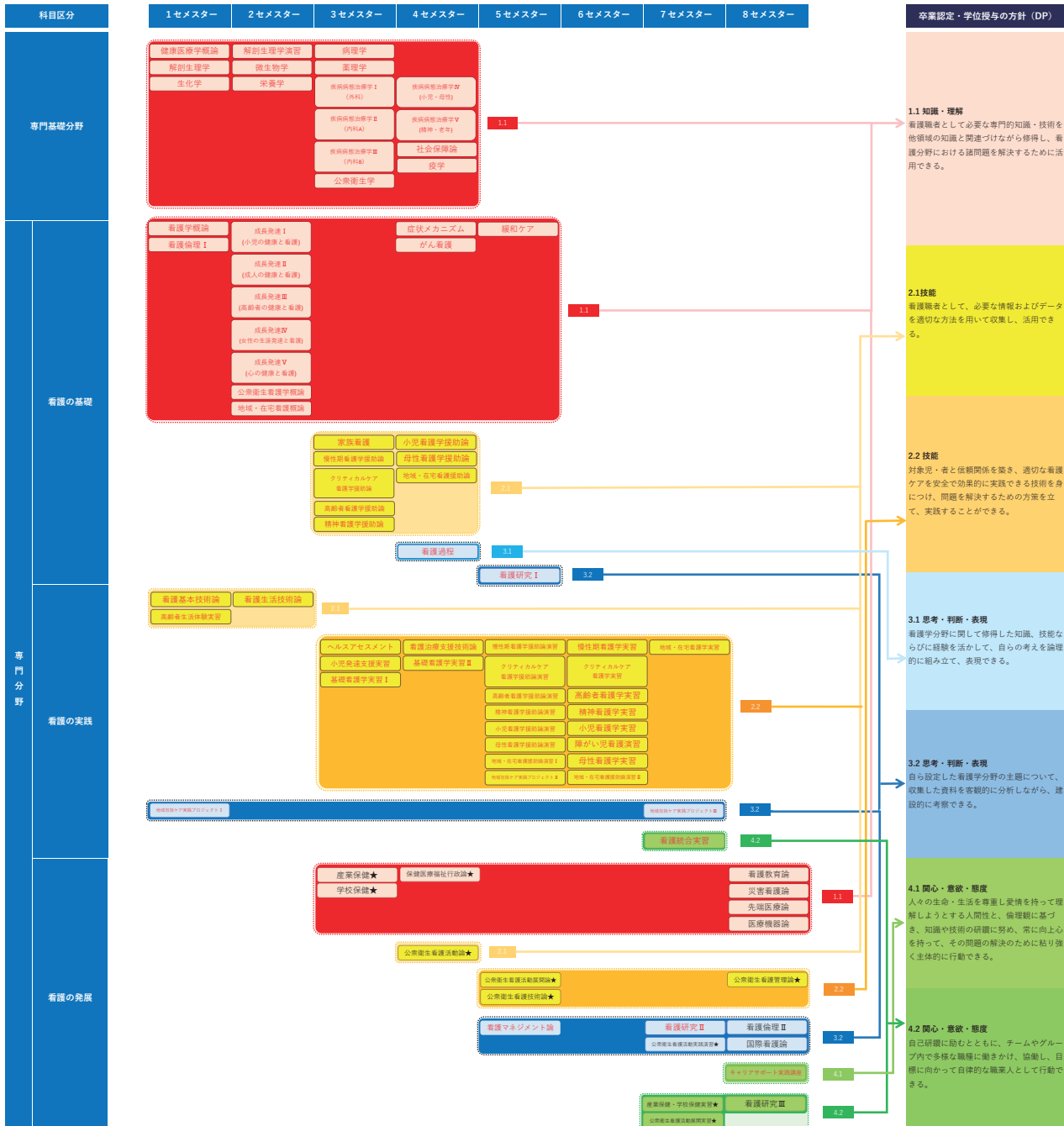
いずれのキャンパスも、夏期冬期等の休業期間中は、上記窓口取扱時間に変更になる場合があります。

現代リベラルアーツ科目 (看護学科)



必修科目 (赤字) は、履修するセメスターに配置しています。
 選択科目 (黒字) は、最も早く履修できるセメスターに配置しています。科目群の下の色の帯は、履修可能なセメスターを表しています。

看護学科（専門科目）



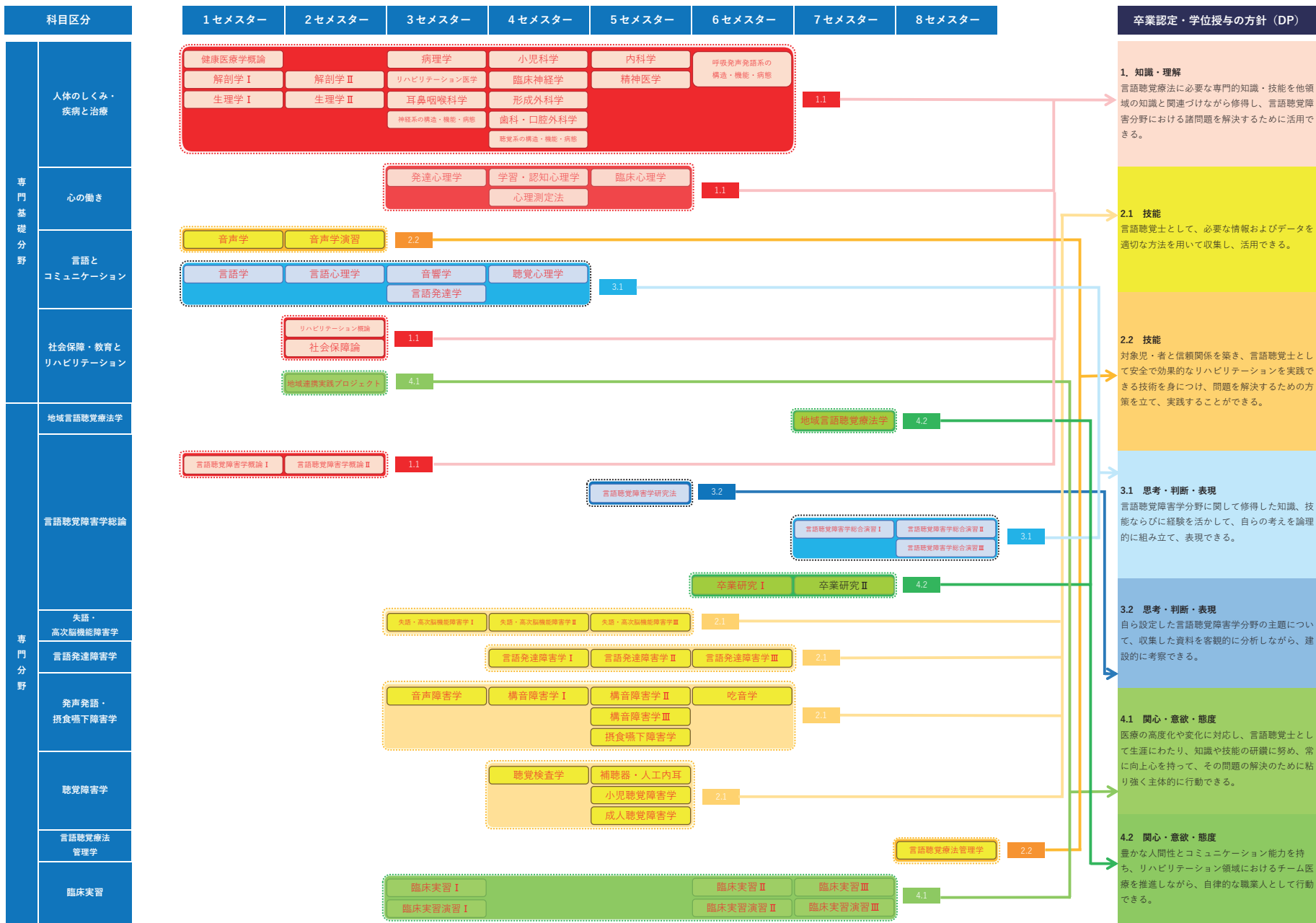
注) ★印の科目は保健師課程必修科目（さらに、現代リベラルアーツ科目の※印の科目を単位修得し、保健師国家試験に合格すると看護教諭2種免許が取得できる）

現代リベラルアーツ科目（言語聴覚学科）

| 科目区分 | | 1セメスター | 2セメスター | 3セメスター | 4セメスター | 5セメスター | 6セメスター | 7セメスター | 8セメスター | 卒業認定・学位授与の方針（DP） | |
|----------------|----------|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------------------|---|
| 学際コア 科目 | 人間と発達 | <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;"> 心理学入門 現代史 健康とライフステージ 健康スポーツ理論 文学 哲学 </div> | | | | | | | | 1.1 | 核となる特定の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。 |
| | 人間と社会 | <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;"> 経済学入門 法学 人権の歴史と現代 日本国憲法 経営学入門 地政学 文化社会学 </div> | | | | | | | | | |
| | 人間と自然 | <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;"> 生物学入門 京の食材 科学技術史 数理統計学 微生物の世界 分子遺伝学 </div> | | | | | | | | | |
| | 人間の複眼的理解 | <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;"> 生命倫理学 メディア・リテラシー リベラルアーツ特別講義A リベラルアーツ特別講義C ビジネス・データサイエンス入門 リベラルアーツ特別講義B リベラルアーツ特別講義D </div> | | | | | | | | | |
| 語学・異文化理解 科目 | 英語科目 | <div style="border: 1px dashed orange; padding: 5px;"> 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英会話A 英会話B 英会話C 英会話D 英会話E 上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ </div> | | | | | | | | 1.1 | 2.1 技能 適切な方法で収集した情報およびデータを活用できる。 |
| | 第二外国語科目 | <div style="border: 1px dashed orange; padding: 5px;"> ベーシック中国語Ⅰ ベーシック中国語Ⅱ ベーシック韓国語Ⅰ ベーシック韓国語Ⅱ ベーシックドイツ語Ⅰ ベーシックドイツ語Ⅱ ベーシックフランス語Ⅰ ベーシックフランス語Ⅱ ベーシックスペイン語Ⅰ ベーシックスペイン語Ⅱ </div> | | | | | | | | 2.2 | |
| | 海外研修科目 | <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> 海外研修ⅠA 海外研修ⅠB 海外研修ⅠC 海外研修Ⅱ </div> | | | | | | | | 4.1 | |
| アカデミック・リテラシー科目 | | <div style="border: 1px dashed yellow; padding: 5px;"> 情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ 統計学 数的処理基礎 AI・データサイエンス基礎 保健医療情報学 </div> | | | | | | | | 2.1 | 3.1 思考・判断・表現 修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。 |
| | | <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> 日本語リテラシーⅠ 日本語リテラシーⅡ アカデミック・ライティングⅠ アカデミック・ライティングⅡ </div> | | | | | | | | 3.1, 3.2 | 3.2 思考・判断・表現 自ら設定した主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。 |
| 未来展望科目 | | <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> 生命の歩みと未来 多様性の尊重 コミュニティの再生 科学技術の革新 タテマティ・オプ・ライフの探究 環境と開発 </div> | | | | | | | | 3.1 | 4.1 関心・意欲・態度 変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。 |
| 初年次科目 | | <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> 初年次ゼミⅠ 初年次ゼミⅡ </div> | | | | | | | | 3.1 | 4.2 関心・意欲・態度 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。 |
| スポーツ・ライフスキル科目 | | <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> SLSⅠ SLSⅡ SLSⅢ SLSⅣ </div> | | | | | | | | 4.1, 4.2 | |
| フィールド・スタディ科目 | | <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> フィールド・スタディA フィールド・スタディB フィールド・スタディC </div> | | | | | | | | 4.2 | |

必修科目（赤字）は、履修するセメスターに配置しています。
 選択科目（黒字）は、最も早く履修できるセメスターに配置しています。科目群の下の色の帯は、履修可能なセメスターを表しています。

言語聴覚学科（専門科目）



卒業認定・学位授与の方針（DP）

1. 知識・理解
言語聴覚療法に必要な専門的知識・技能を他領域の知識と関連づけながら修得し、言語聴覚障害分野における諸問題を解決するために活用できる。

2.1 技能
言語聴覚士として、必要な情報およびデータを適切な方法を用いて収集し、活用できる。

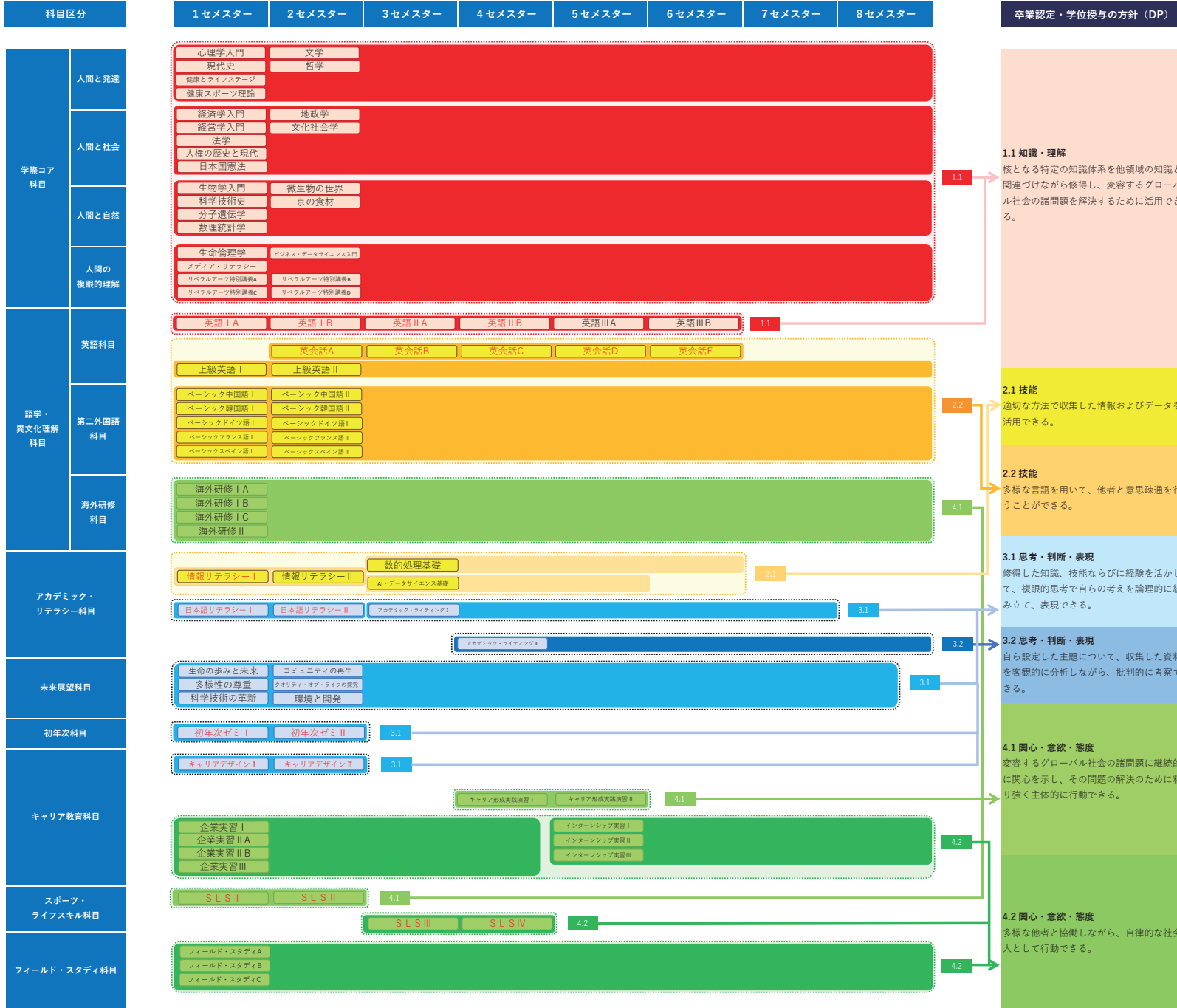
2.2 技能
対象児・者と信頼関係を築き、言語聴覚士として安全で効果的なリハビリテーションを実践できる技術を身に付け、問題を解決するための方策を立て、実践することができる。

3.1 思考・判断・表現
言語聴覚障害学分野に関して修得した知識、技能ならびに経験を活かして、自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。

3.2 思考・判断・表現
自ら設定した言語聴覚障害学分野の主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、建設的に考察できる。

4.1 関心・意欲・態度
医療の高度化や変化に対応し、言語聴覚士として生涯にわたり、知識や技能の研鑽に努め、常に向上心を持って、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

4.2 関心・意欲・態度
豊かな人間性とコミュニケーション能力を持ち、リハビリテーション領域におけるチーム医療を推進しながら、自律的な職業人として行動できる。



卒業認定・学位授与の方針 (DP)

1.1 知識・理解
核となる特定の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2.1 技能
適切な方法で収集した情報およびデータを活用できる。

2.2 技能
多様な言語を用いて、他者と意思疎通を行うことができる。

3.1 思考・判断・表現
修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。

3.2 思考・判断・表現
自ら設定した主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4.1 関心・意欲・態度
変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

4.2 関心・意欲・態度
多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

必修科目 (赤字) は、履修するセメスターに配置しています。
選択科目 (黒字) は、最も早く履修できるセメスターに配置しています。科目群の下の色の帯は、履修可能なセメスターを表しています。

健康スポーツ学科（専門科目）

| 科目区分 | | 1セメスター | 2セメスター | 3セメスター | 4セメスター | 5セメスター | 6セメスター | 7セメスター | 8セメスター | 卒業認定・学位授与の方針（DP） | | |
|--------|-----------------------------------|---|---|--|---------------------------------|----------------------|------------------------------------|---------------------|--------|------------------|-----|--|
| 専門科目 | 基礎科目 | スポーツ教育論 スポーツ心理学 | スポーツ原理 スポーツ社会学 機能解剖学 | | | | | | | | 1.1 | <p>1.1 知識・理解 健康スポーツ科学に関する専門的知識・技能を他領域の知識と関連づけながら修得し、健康スポーツ科学分野における諸問題を解決するために活用できる。</p> <p>2.1 技能 健康スポーツ科学分野に携わる職業人として、適切な方法を用いて必要な情報を収集し、活用できる。</p> <p>2.2 技能 対象者と信頼関係を築き、健康スポーツ科学分野に携わる職業人として、安全で効果的なスポーツ指導ができる技術を身につけ、問題を解決するための方策を立て、実践することができる。</p> <p>3.1 思考・判断・表現 健康スポーツ科学分野に関して修得した知識・技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。</p> <p>3.2 思考・判断・表現 自ら設定した健康スポーツ科学分野の主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。</p> <p>4.1 関心・意欲・態度 変容するグローバル社会や健康スポーツ科学分野の諸問題に継続的に関心を示し、知識や技能の研鑽に努め、常に向上心を持って、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。</p> <p>4.2 関心・意欲・態度 健康スポーツ科学分野の知識・技能に基づいて、多様な職種の人々とコミュニケーションを取り、協働しながら、自律的な職業人として行動できる。</p> |
| | 応用科目 | 健康スポーツ概論 | 3.1 | 運動生理学Ⅰ コーチング論 | | | | | | 3.2 | | |
| | 実習科目 | スポーツトレーニング実習 レクリエーション実習 | 健康フィットネス実習 | レジャー・レクリエーション論 スポーツ組織論 競技スポーツトレーニング論 | スポーツ栄養学 衛生学・公衆衛生学 | 健康スポーツトレーニング論 | 救急・応急処置 運動疫学 学校保健 生活健康医療論 | スポーツ運動学 バイオメカニクス | | | 1.1 | |
| | 実技科目 | 野外運動 体づくり運動 陸上競技A ベースボール型球技A 水泳・水中運動 ゴール型球技A | 陸上競技B ベースボール型球技B | 器械運動A ネット型球技A | 器械運動B ネット型球技B | ダンス 柔道 ネット型球技B | | | | | 2.2 | |
| | 演習科目 | | | | | ストレンクス&コンディショニング実習 | | | | | 4.2 | |
| | | | | | | | | | | | 2.1 | |
| | | | | | | | | | | | 2.2 | |
| | | | | | | | | | | | 1.1 | |
| | | | | | | | | | | | 2.1 | |
| | | | | | | | | | | | 3.1 | |
| | | | | | | | | | | 3.2 | | |
| | | | | | | | | | | 4.2 | | |
| 教職関連科目 | 教職入門 教育の方法及び技術（ICT活用の理論と実践を含む） | 教育制度論 教育課程論 | 保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅲ 教育原論 道徳教育の指導法 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 生徒・進路指導論 | 保健体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅳ 発達と学習の心理学 | 教育実習 事前指導Ⅰ 特別支援教育 教育相談 | 教育実習 事前指導Ⅱ | 教育実習A 教育実習B | 教職実践演習(中・高) | | | | |

